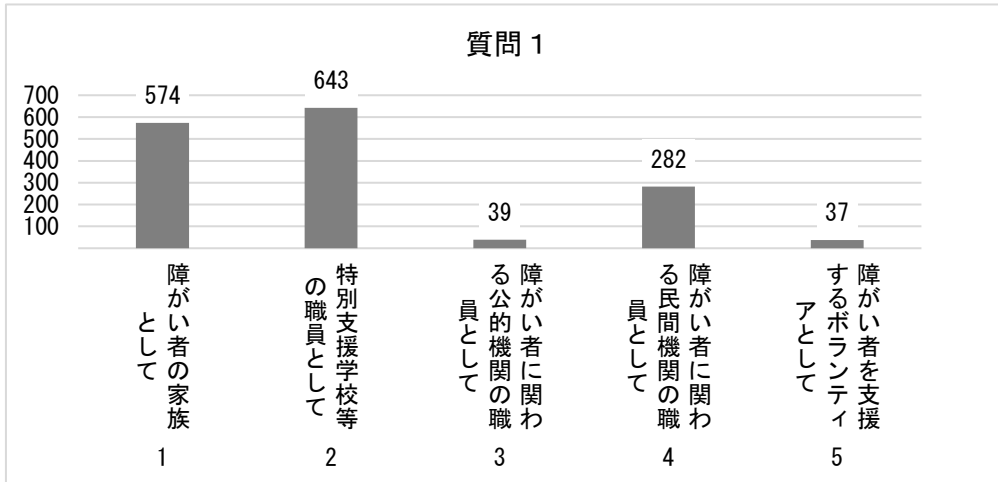


質問 1

あなたは、この調査にどのような立場で回答されますか。次の1～5の中から1つ選び、○をつけてください。
 (複数の該当があっても、回答は1つだけとしてください。)

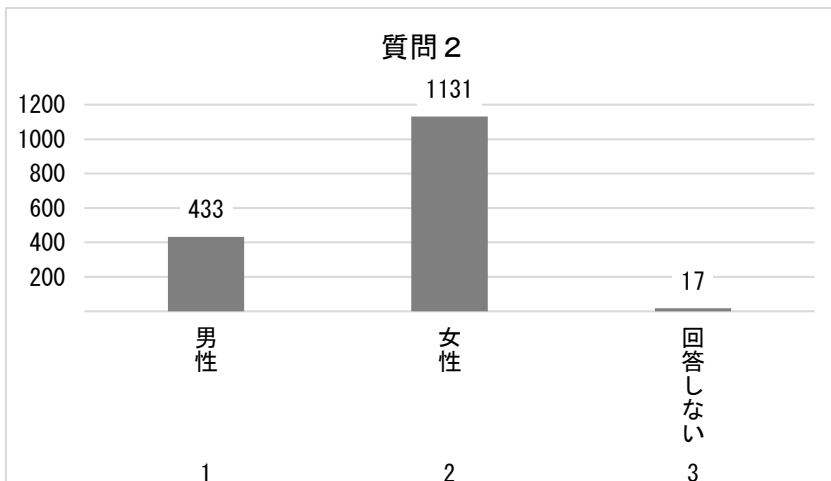
項目	回答数	属性別
1 障がい者の家族として	574	1 家族
2 特別支援学校等の職員として	643	2 職員
3 障がい者に関わる公的機関の職員として	39	3 公的機関
4 障がい者に関わる民間機関の職員として	282	4 民間機関
5 障がい者を支援するボランティアとして	37	5 ボランティア



質問 2

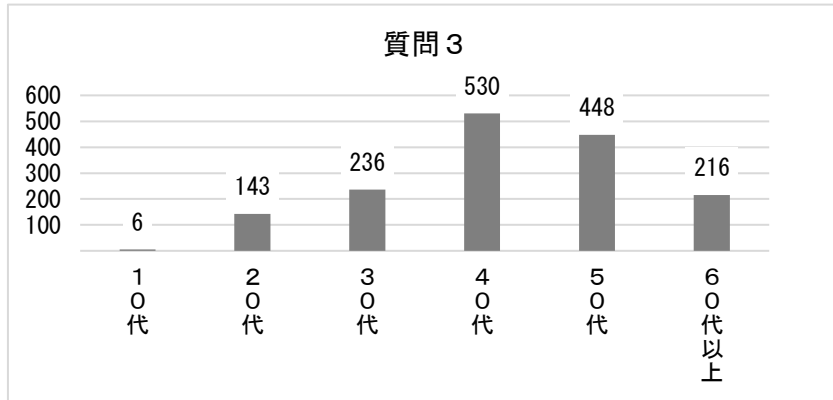
あなたの性別を次の1～3の中から1つ選び、○をつけてください。

項目	回答数
1 男性	433
2 女性	1131
3 回答しない	17



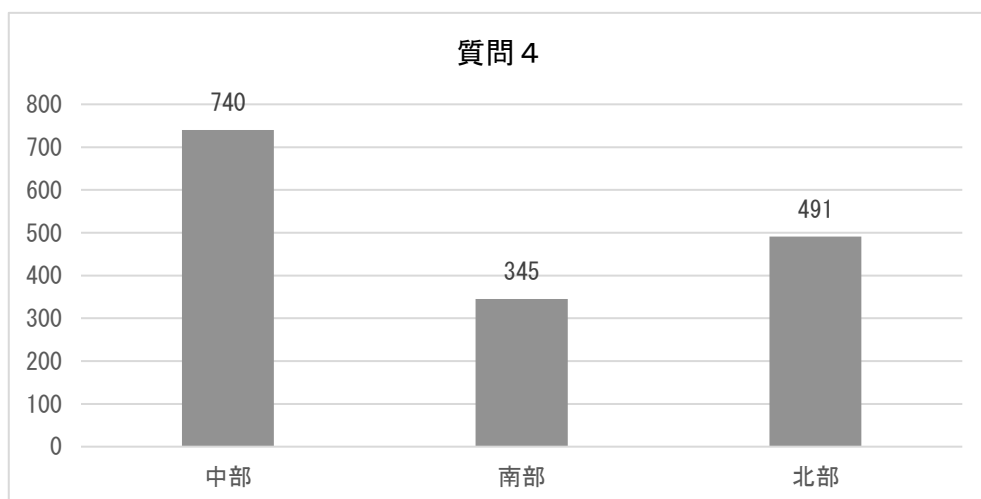
質問3 あなたの年齢を次の1～6の中から1つ選び、○をつけてください。

項目	回答数
1 10代	6
2 20代	143
3 30代	236
4 40代	530
5 50代	448
6 60代以上	216



質問4 あなたが住んでいる市町村名を次の1～15から1つ選び、○をつけてください。

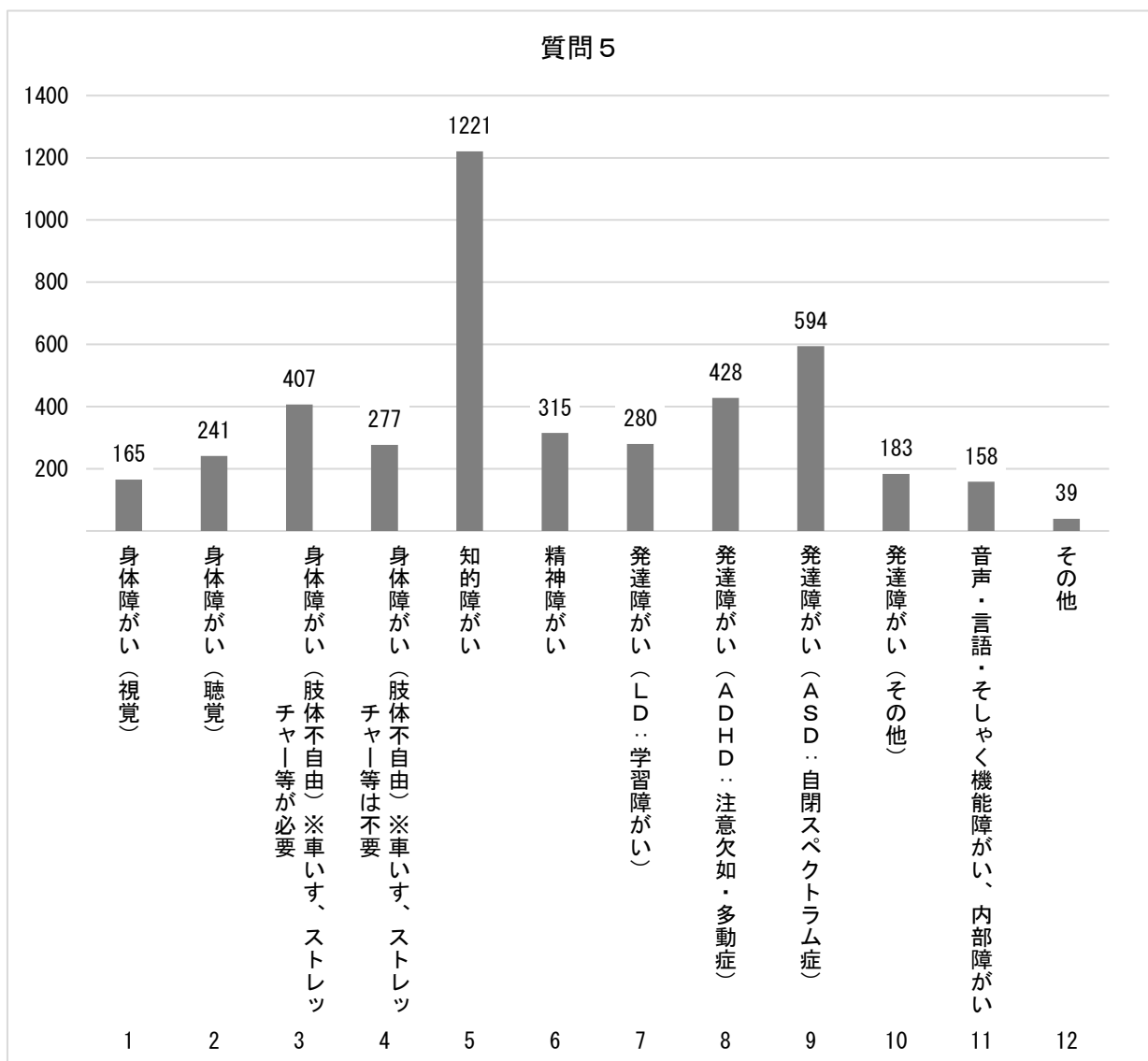
項目	回答数
1 宮崎市	740
2 東諸県郡（国富町、綾町）	
3 日南市	
4 串間市	
5 西都市	
6 児湯郡（高鍋町、新富町、西米良村、木城町、川南町、都農町）	
7 都城市	345
8 北諸県郡（三股町）	
9 小林市	
10 えびの市	
11 西諸県郡（高原町）	
12 延岡市	491
13 日向市	
14 東臼杵郡（門川町、諸塚村、椎葉村、美郷町）	
15 西臼杵郡（高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町）	



質問5

あなたが日頃おもに関わっている人の障がいの種類について、次の1～12の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。 ※複数回答可

項目	回答数
1 身体障がい（視覚）	165
2 身体障がい（聴覚）	241
3 身体障がい（肢体不自由）※車いす、ストレッチャー等が必要	407
4 身体障がい（肢体不自由）※車いす、ストレッチャー等は不要	277
5 知的障がい	1221
6 精神障がい	315
7 発達障がい（LD：学習障がい）	280
8 発達障がい（ADHD：注意欠如・多動症）	428
9 発達障がい（ASD：自閉スペクトラム症）	594
10 発達障がい（その他）	183
11 音声・言語・そしゃく機能障がい、内部障がい	158
12 その他	39



【「その他」に記載のあったのおもな回答】

- ・病弱
- ・小児がんの弱児
- ・心臓機能障がい
- ・吃音
- ・場面緘黙
- ・重度心身障がい
- ・呼吸器障がい
- ・腎移植

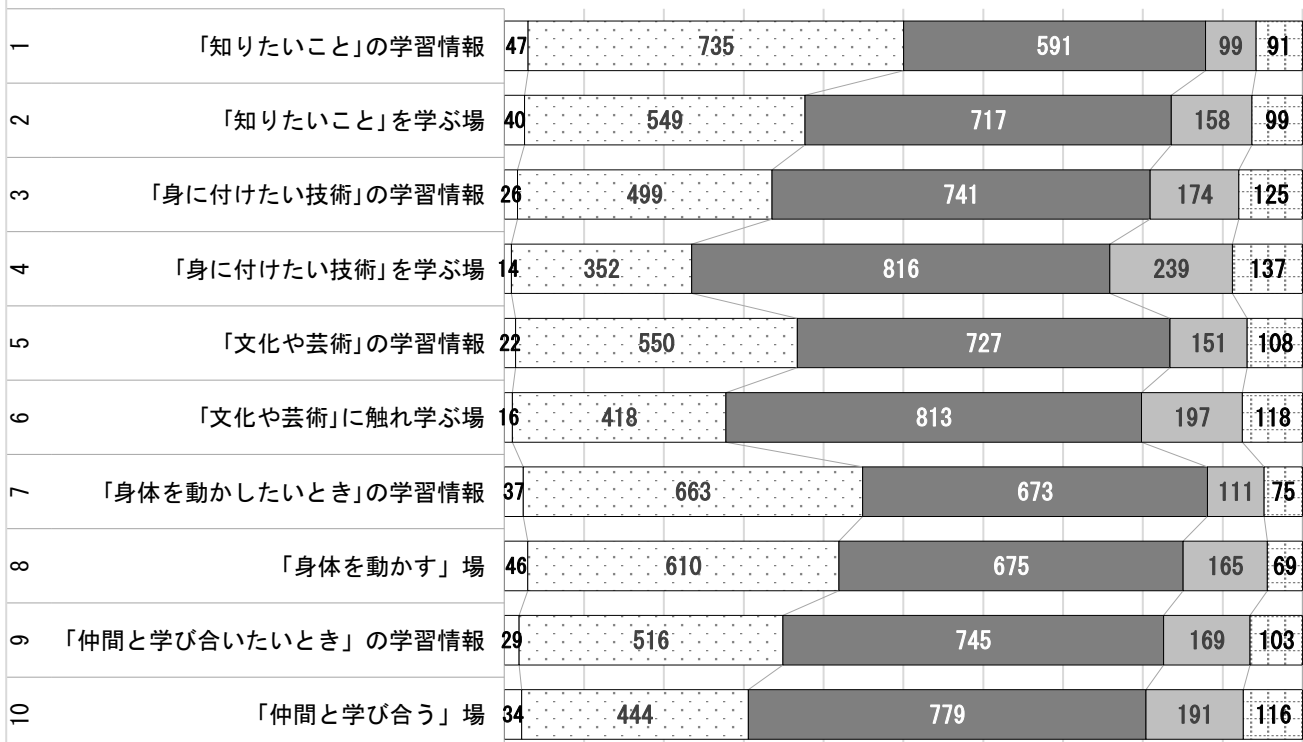
質問6

障がいのある人が1～10のようなことを学びたいと思ったとき、その情報や機会は身近にあると思いますか。1～10それぞれについて、ア～オの中から最もよくあてはまるもの一つに○をつけてください。

項目	ア とてもある	イ ある	ウ あまりない	エ ない	オ 分からない
1 「知りたいこと」の学習情報	47	735	591	99	91
2 「知りたいこと」を学ぶ場	40	549	717	158	99
3 「身に付けたい技術」の学習情報	26	499	741	174	125
4 「身に付けたい技術」を学ぶ場	14	352	816	239	137
5 「文化や芸術」の学習情報	22	550	727	151	108
6 「文化や芸術」に触れ学ぶ場	16	418	813	197	118
7 「身体を動かしたいとき」の学習情報	37	663	673	111	75
8 「身体を動かす」場	46	610	675	165	69
9 「仲間と学び合いたいとき」の学習情報	29	516	745	169	103
10 「仲間と学び合う」場	34	444	779	191	116

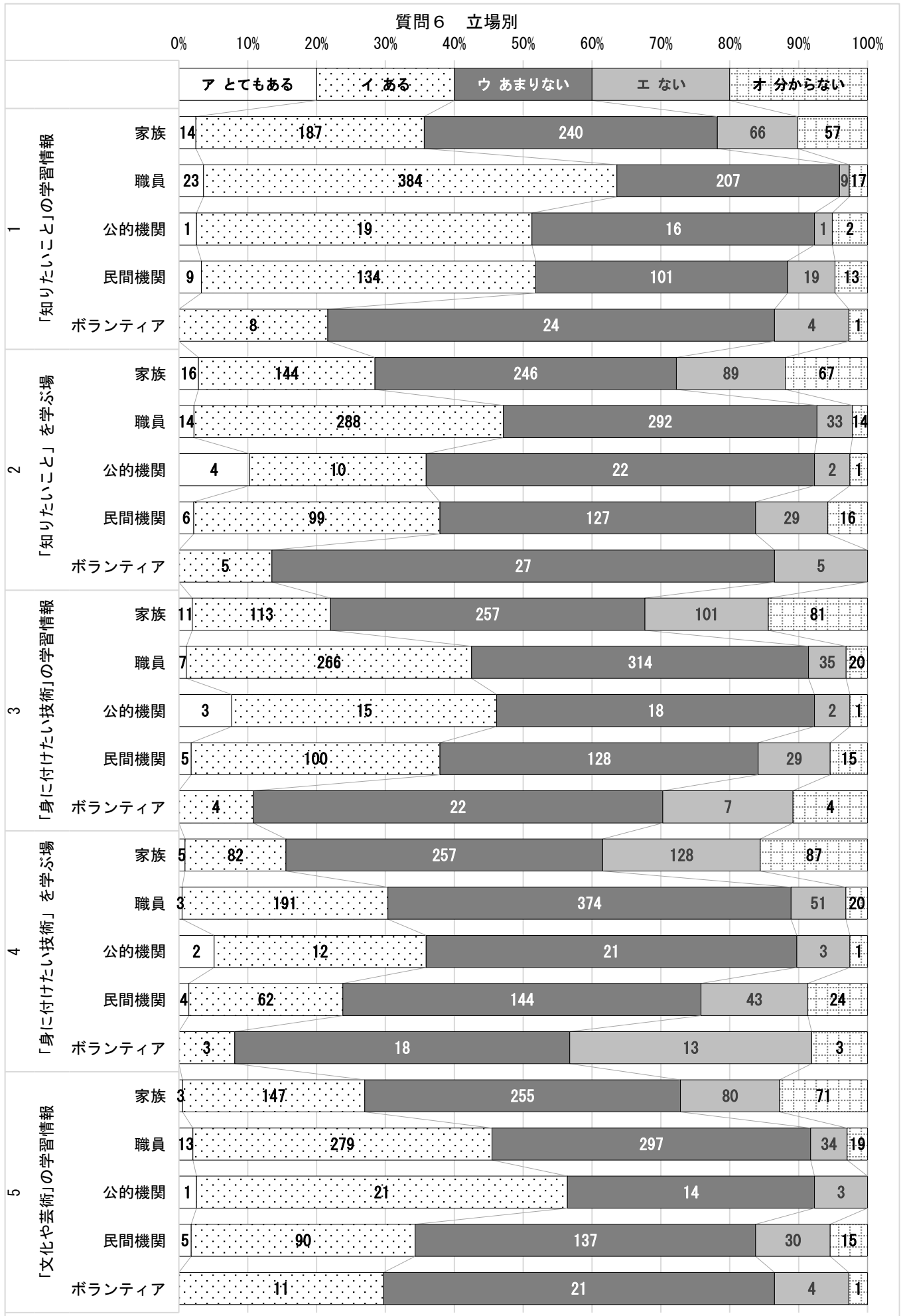
質問6

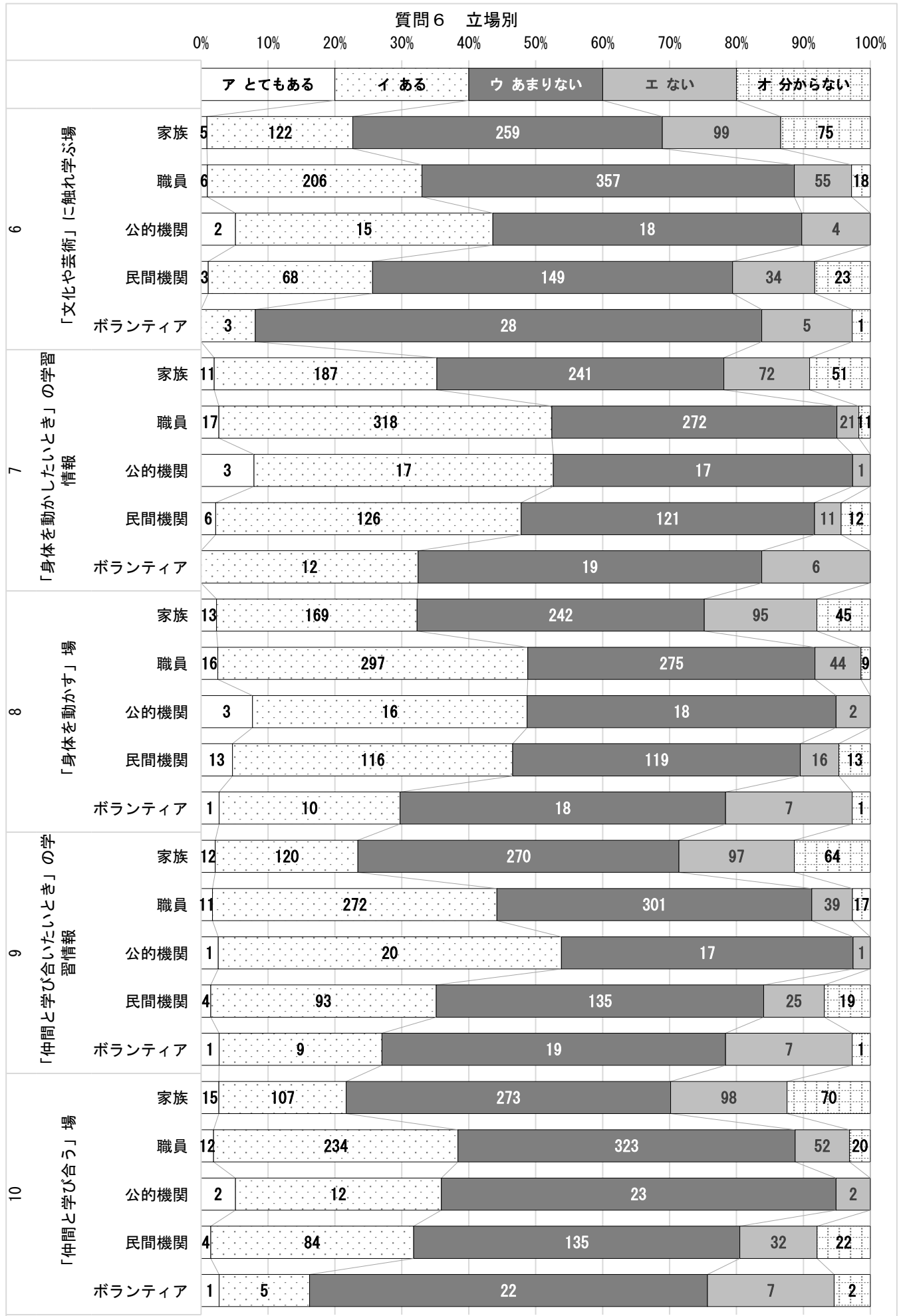
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

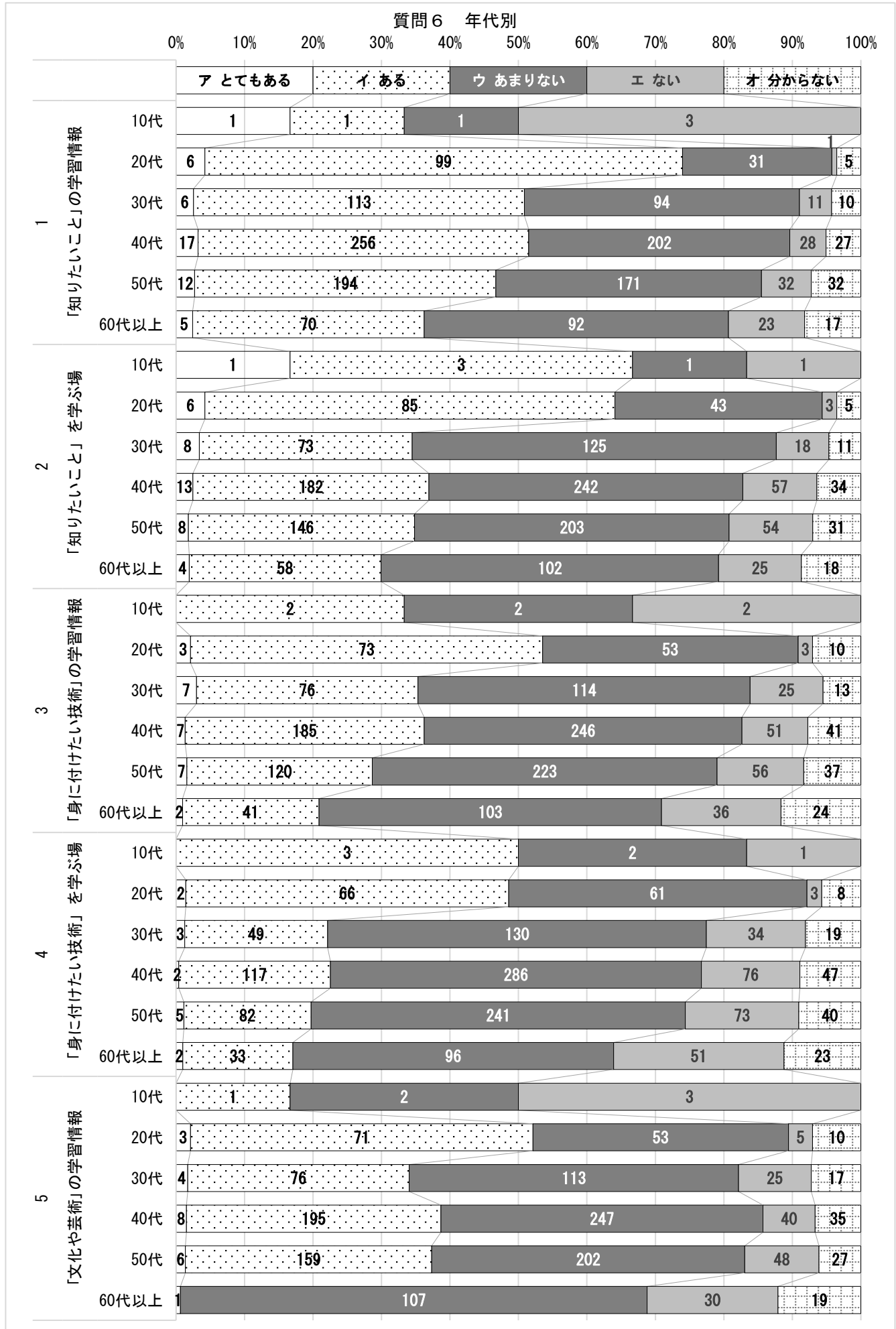


□ア とてもある □イ ある □ウ あまりない □エ ない □オ 分からない

- ・全体的に、学習情報・学びの場いずれについても、本人用調査に比べて「あまりない」「ない」の回答割合が高い。
- ・学習情報については、「身に付けたい技術」(58.5%)「仲間と学び合いたいとき」(58.5%)で「あまりない」「ない」の回答割合が高い。
- ・学びの場については、「身に付けたい技術」(67.7%)「文化や芸術」(64.7%)「仲間と学び合う」(62.0%)で、「あまりない」「ない」の回答割合が高い。





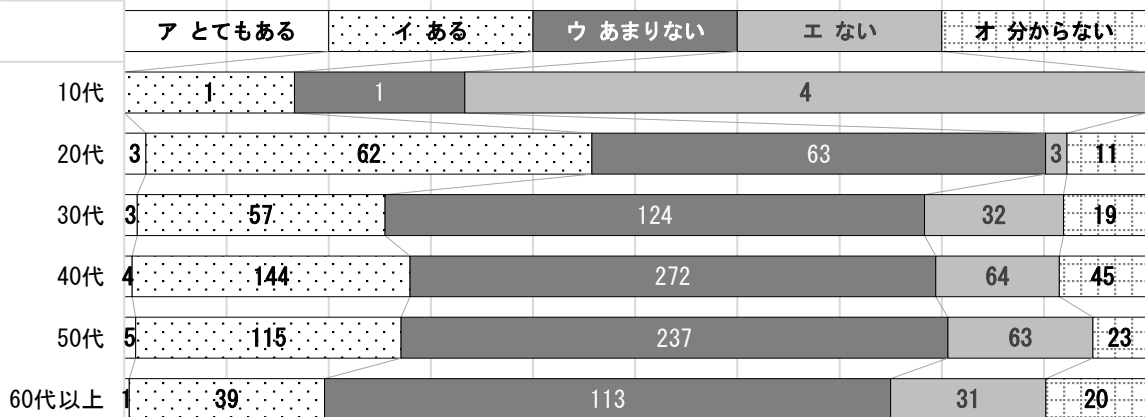


質問6 年代別

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

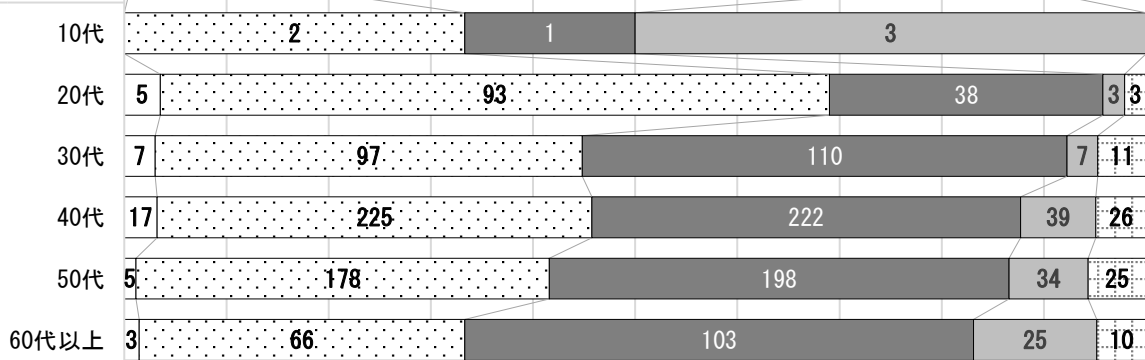
6

「文化や芸術」に触れ学ぶ場



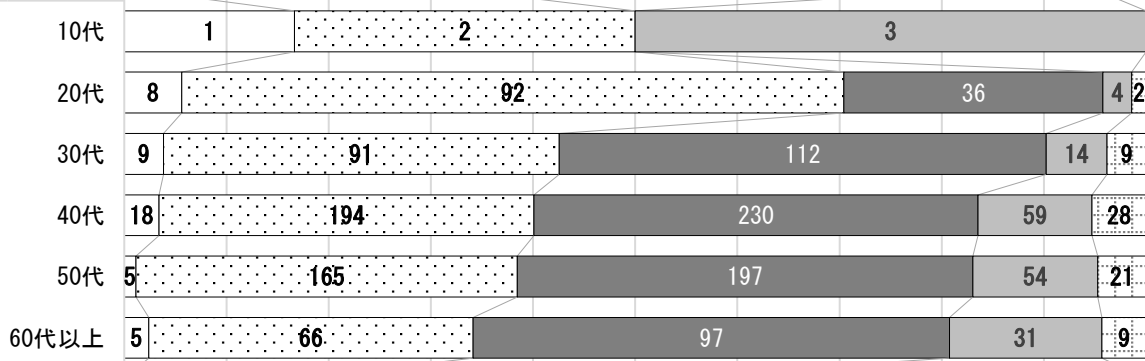
7

「身体を動かしたいとき」の学習情報



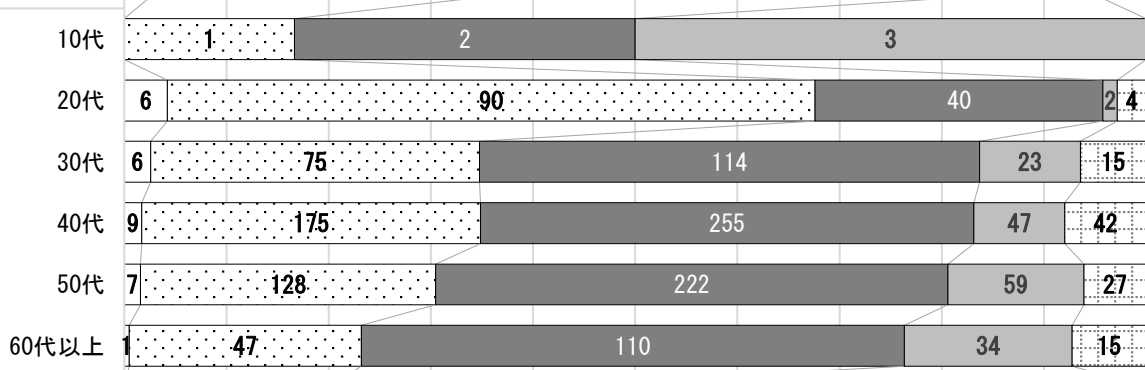
8

「身体を動かす」場



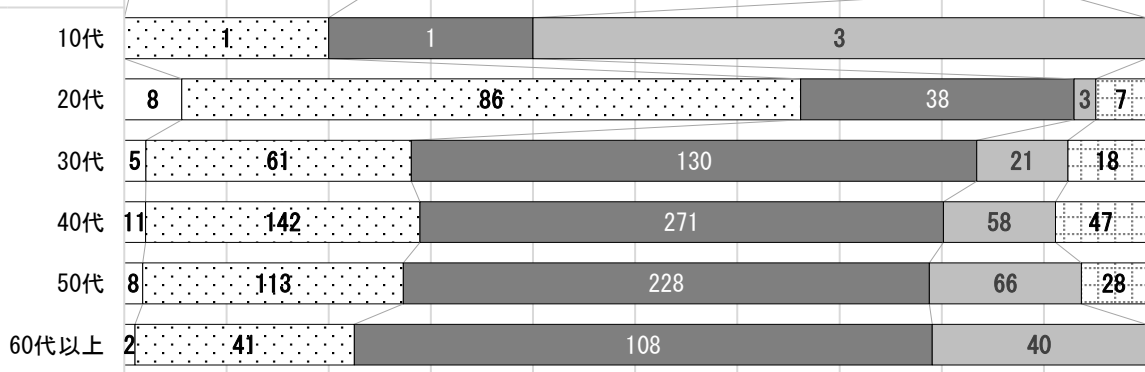
9

「仲間と学び合いたいとき」の学習情報



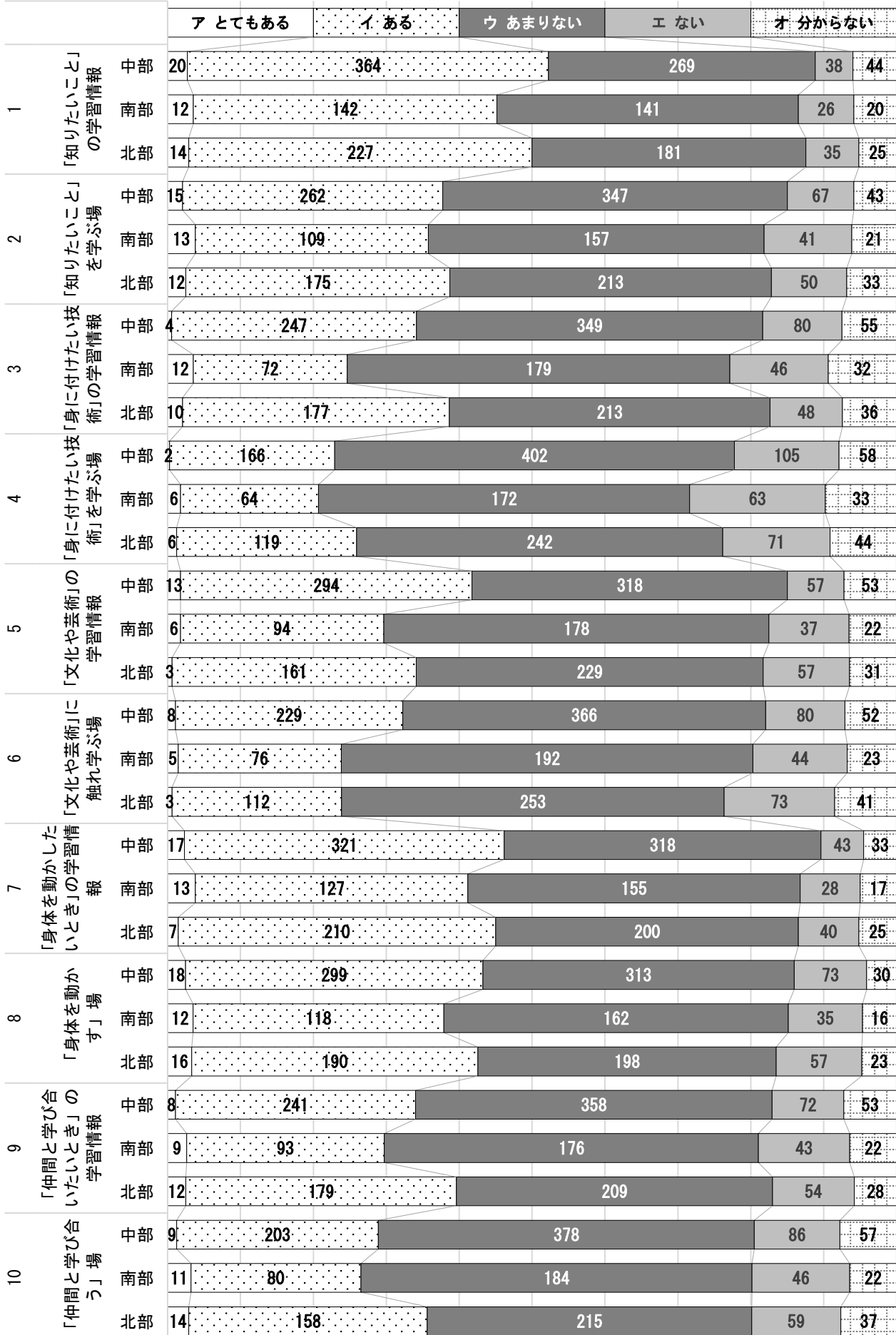
10

「仲間と学び合う」場



質問6 居住地別

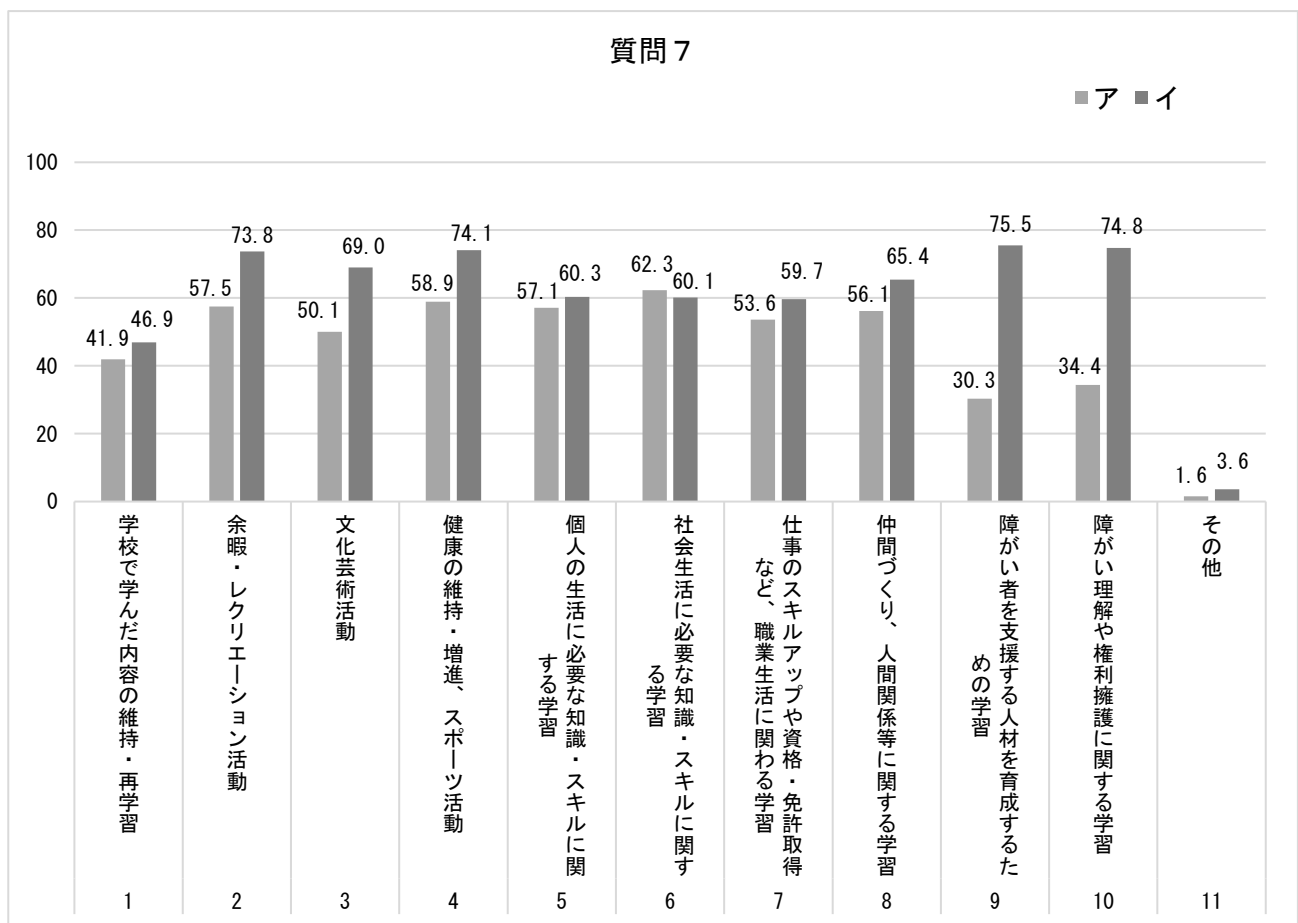
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



質問7

障がいのある人にとって、次の1～11のうち、どのような生涯学習活動が必要だと思いますか。ア「障がいのある人を対象とした活動」、イ「障がいの有無に関わらず誰もが参加可能な活動」の別に、あてはまるものをすべて選び、○をつけてください。 ※ア、イそれぞれ複数回答可

項目	ア	イ
1 学校で学んだ内容の維持・再学習	663	742
2 余暇・レクリエーション活動	909	1167
3 文化芸術活動	792	1092
4 健康の維持・増進、スポーツ活動	932	1172
5 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	904	954
6 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	986	951
7 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	848	944
8 仲間づくり、人間関係等に関する学習	888	1035
9 障がい者を支援する人材を育成するための学習	480	1194
10 障がい理解や権利擁護に関する学習	544	1183
11 その他	25	57



※グラフ中の値は、回収部数の計 (1,582) に対する回答割合を示す。(単位%)

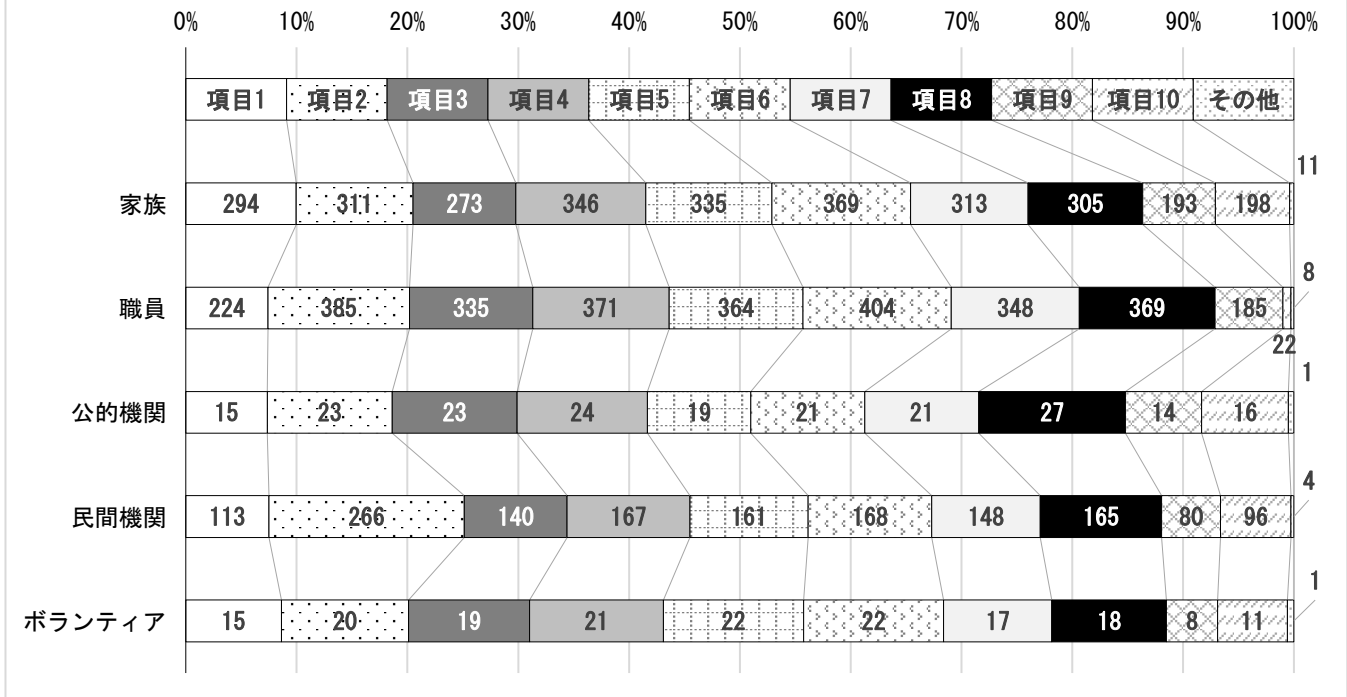
【「その他」に記載のあったの主な回答】

- ・ 結婚、恋愛につながる出会いの場
- ・ 福祉教育
- ・ 幼いころからの障がい理解
- ・ 障がい児のいる家庭の特性、他のきょうだいの立場に関する学習、啓発、家族臨床等
- ・ 視野を広げる取組
- ・ 本人が決定できる仕組み

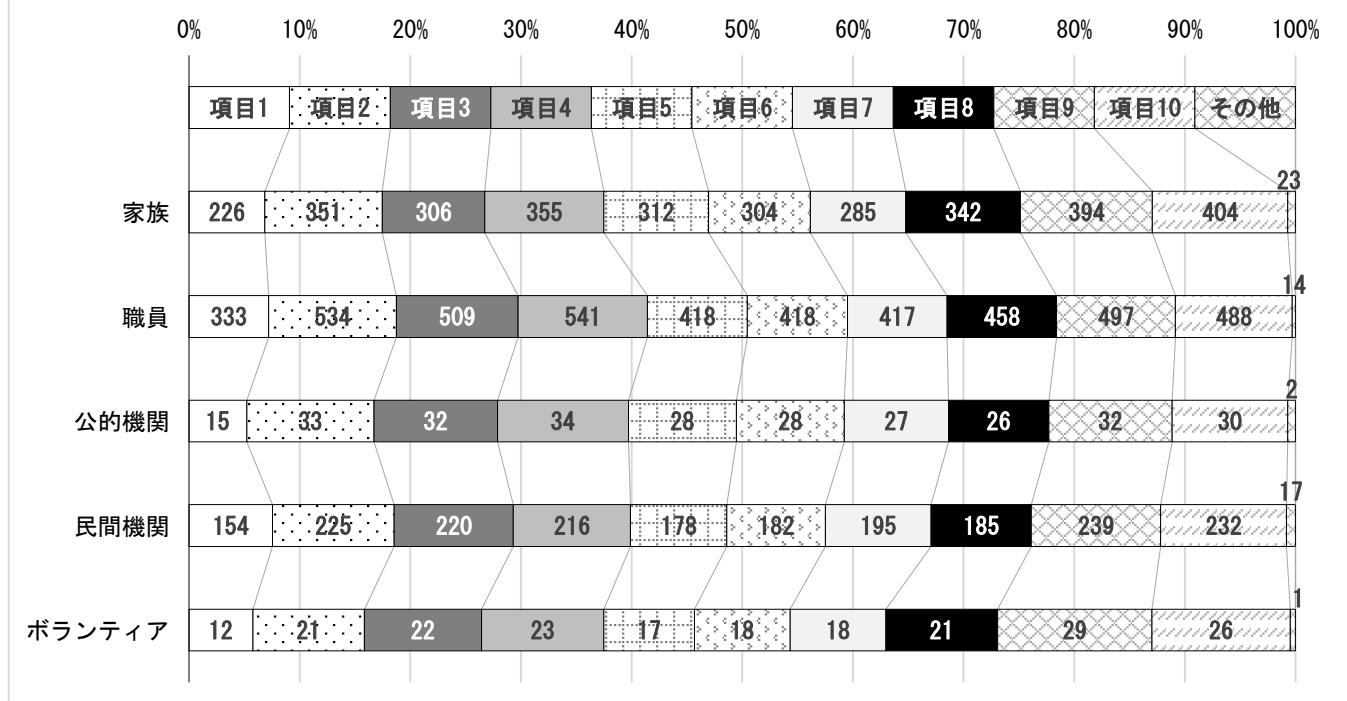
- ・ 学習活動の必要性について、ア「障がい者を対象とした学習活動」では、「社会生活」(62.3%)が最も高く、「健康の維持・増進」(58.9%)、「余暇・レクリエーション」(57.5%)、「個人生活」(57.1%)が続いている。
- ・ イ「障がいの有無に関わらず誰もが参加可能な学習活動」では、「学習を支援する人材の育成」(75.5%)、「障がい理解」(74.8%)、「健康の維持・増進、スポーツ」(74.1%)、「余暇・レクリエーション」(73.8%)の回答割合が高い。

項目1	学校で学んだ内容の維持・再学習
項目2	文化芸術活動
項目3	余暇・レクリエーション活動
項目4	健康の維持・増進、スポーツ活動
項目5	個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
項目6	社会生活に必要な知識・スキルに関する学習
項目7	仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習
項目8	仲間づくり、人間関係等に関する学習
項目9	障がい者を支援する人材を育成するための学習
項目10	障がい理解や権利擁護に関する学習

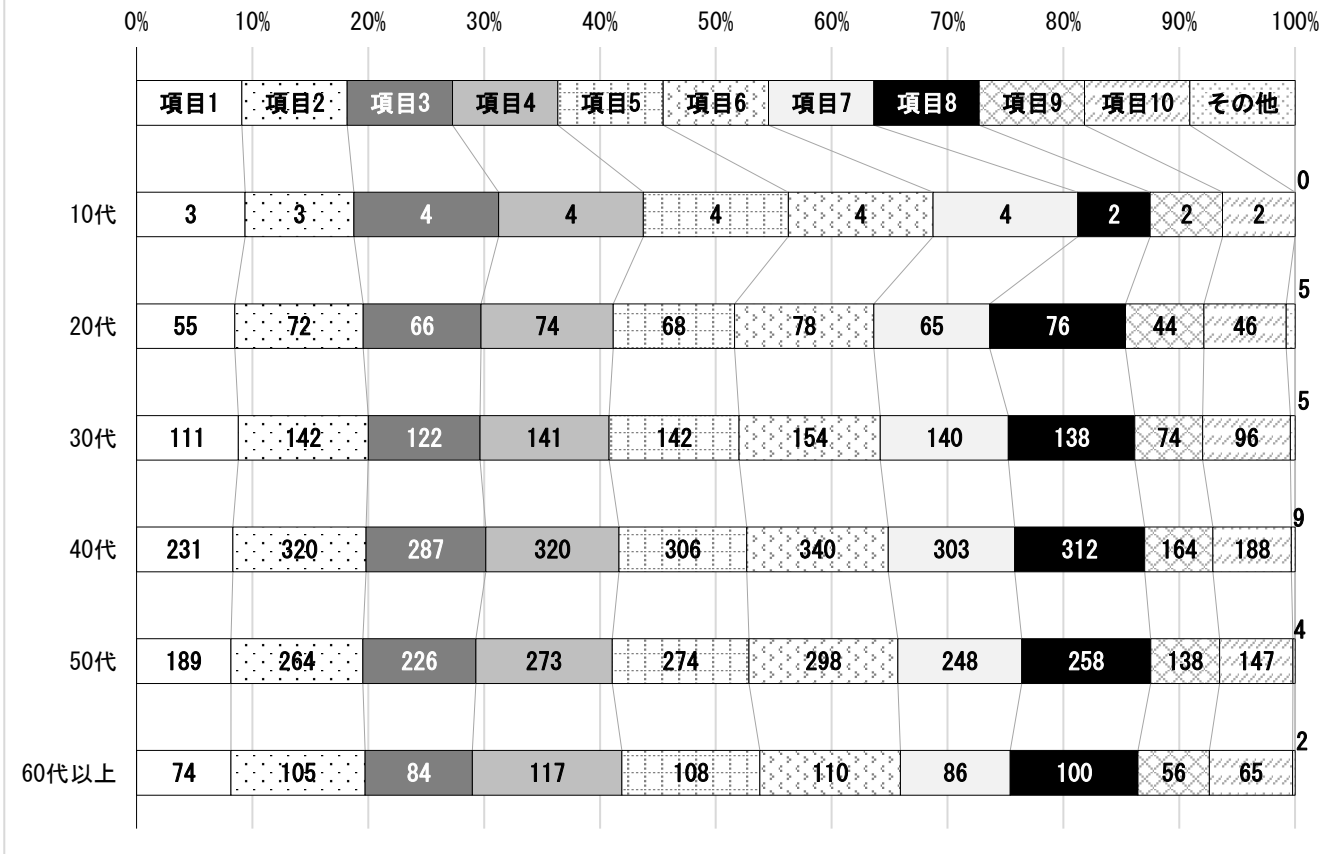
質問7 立場別（ア 障がいのある人を対象とした活動）



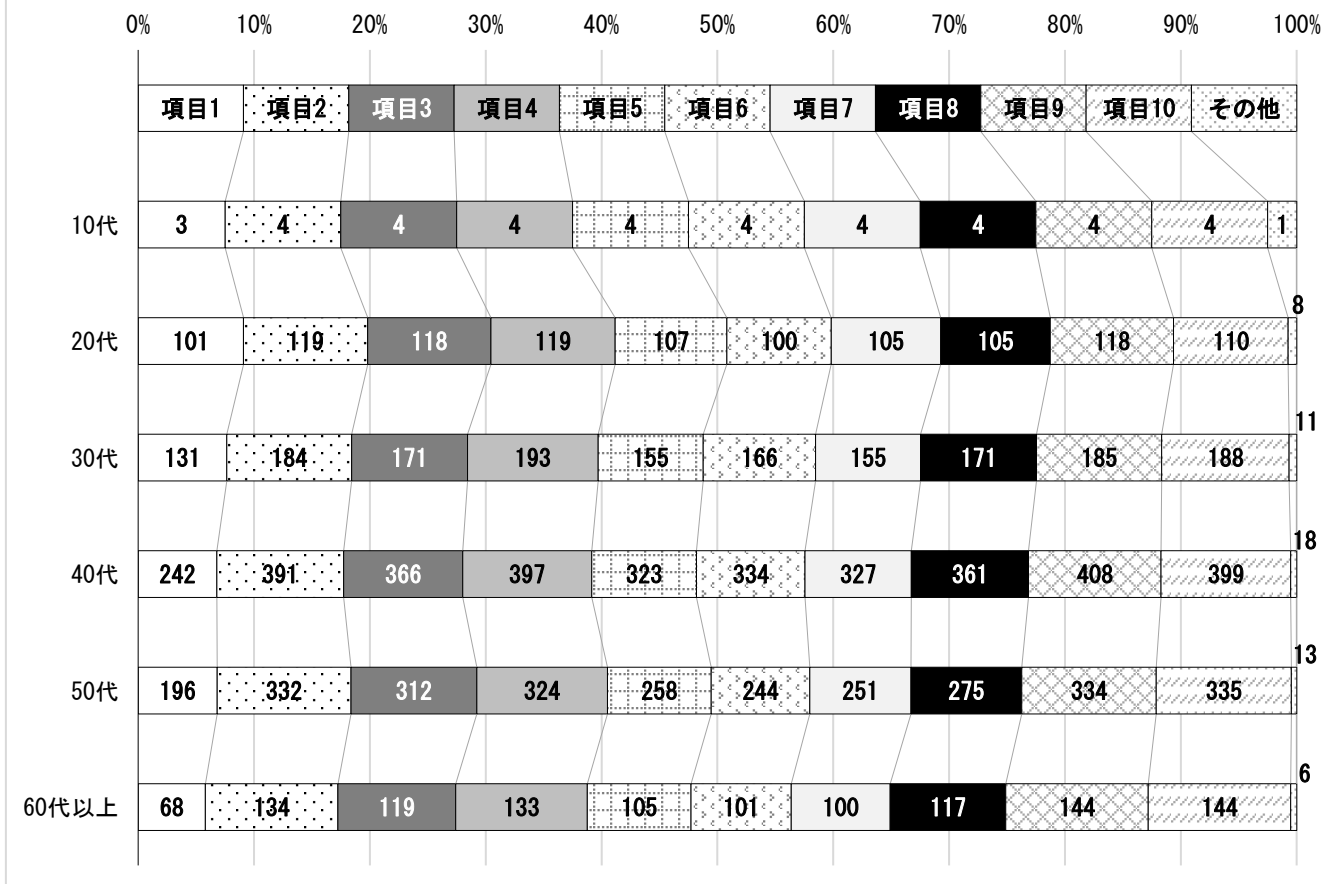
質問7 立場別（イ 障がい有無に関わらず誰もが参加可能な活動）



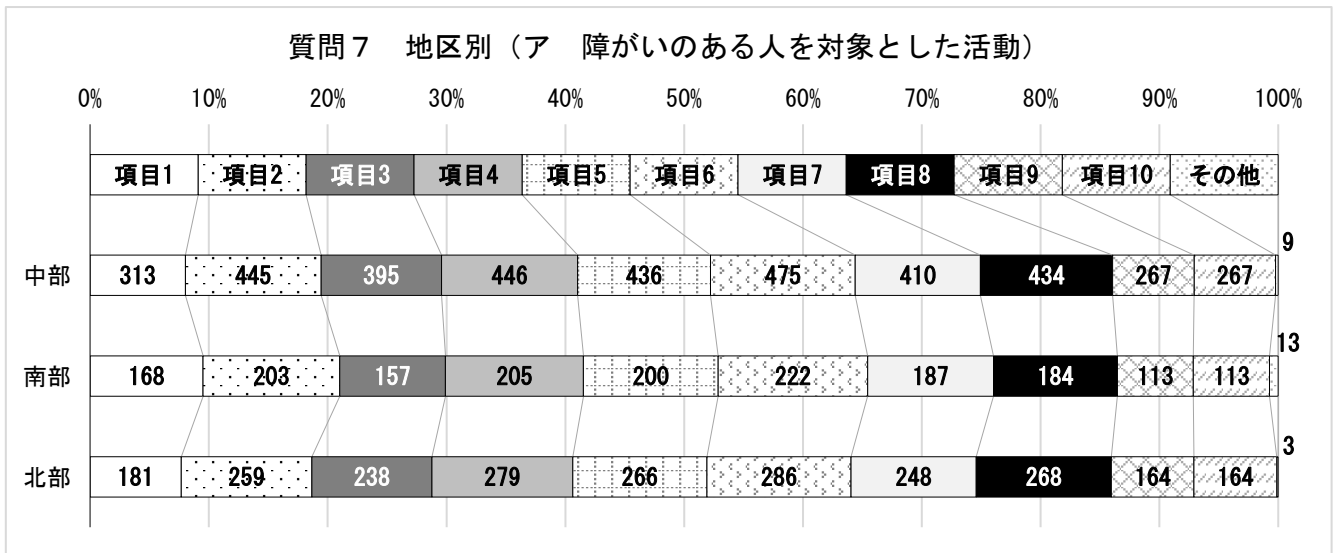
質問7 年代別（ア 障がいのある人を対象とした活動）



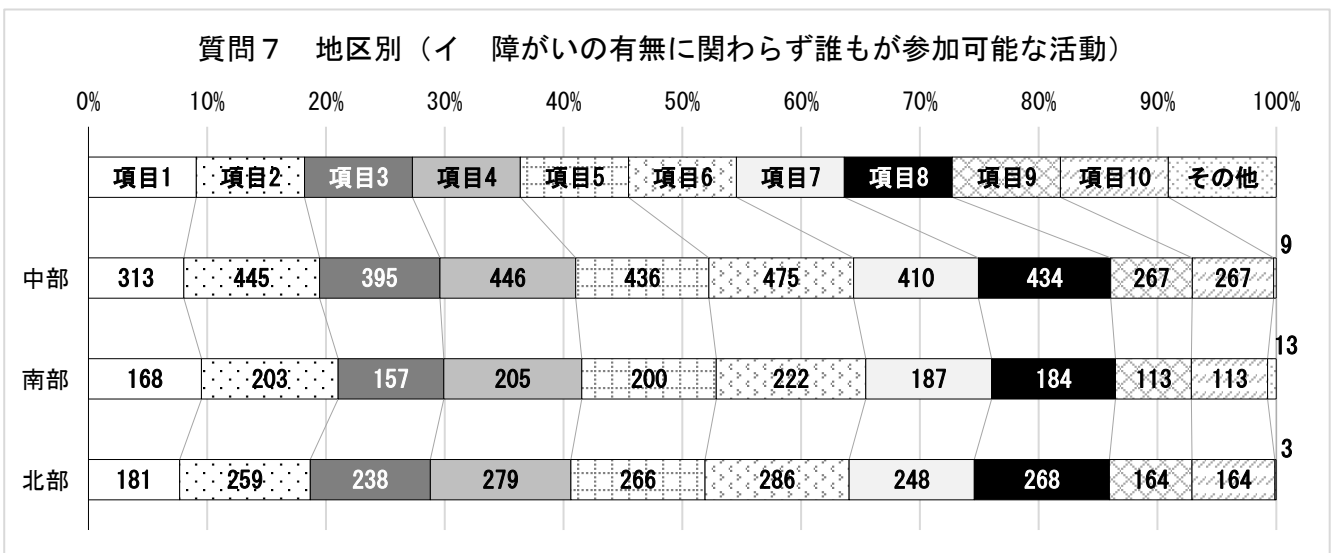
質問7 年代別（イ 障がいの有無に関わらず誰もが参加可能な活動）



質問7 地区別（ア 障がいのある人を対象とした活動）



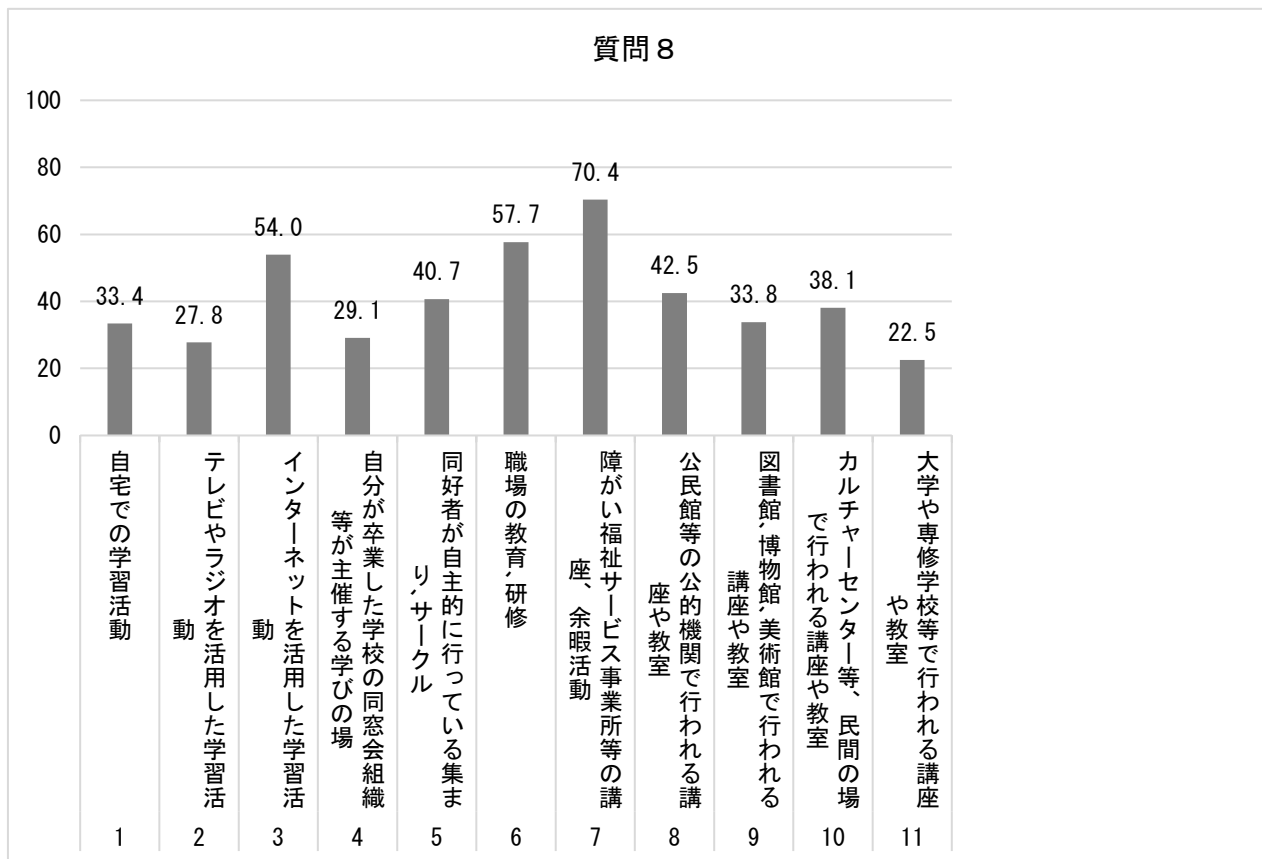
質問7 地区別（イ 障がいの有無に関わらず誰もが参加可能な活動）



質問 8

障がいのある人の生涯学習活動が行われる場所として、今後どのような場で行われる機会が増えていくとよいと思いますか。次の1～11の中から、あてはまるものすべてに○を付けてください。
※複数回答可

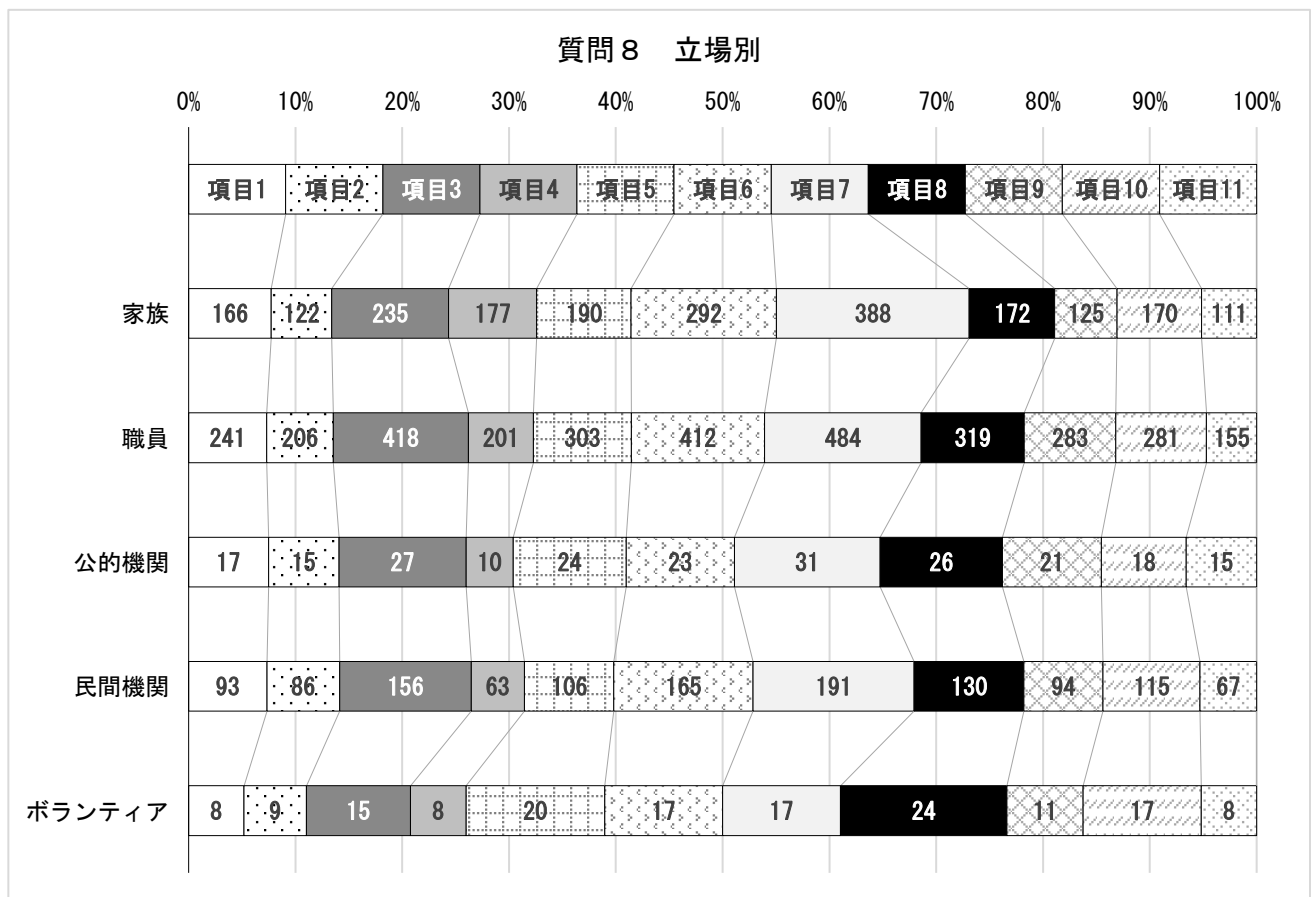
項目	回答数
1 自宅での学習活動	529
2 テレビやラジオを活用した学習活動	440
3 インターネットを活用した学習活動	854
4 自分が卒業した学校の同窓会組織等が主催する学びの場	460
5 同好者が自主的に行っている集まり、サークル	644
6 職場の教育、研修	913
7 障がい福祉サービス事業所等の講座、余暇活動	1114
8 公民館等の公的機関で行われる講座や教室	672
9 図書館、博物館、美術館で行われる講座や教室	535
10 カルチャーセンター等、民間の場で行われる講座や教室	602
11 大学や専修学校等で行われる講座や教室	356



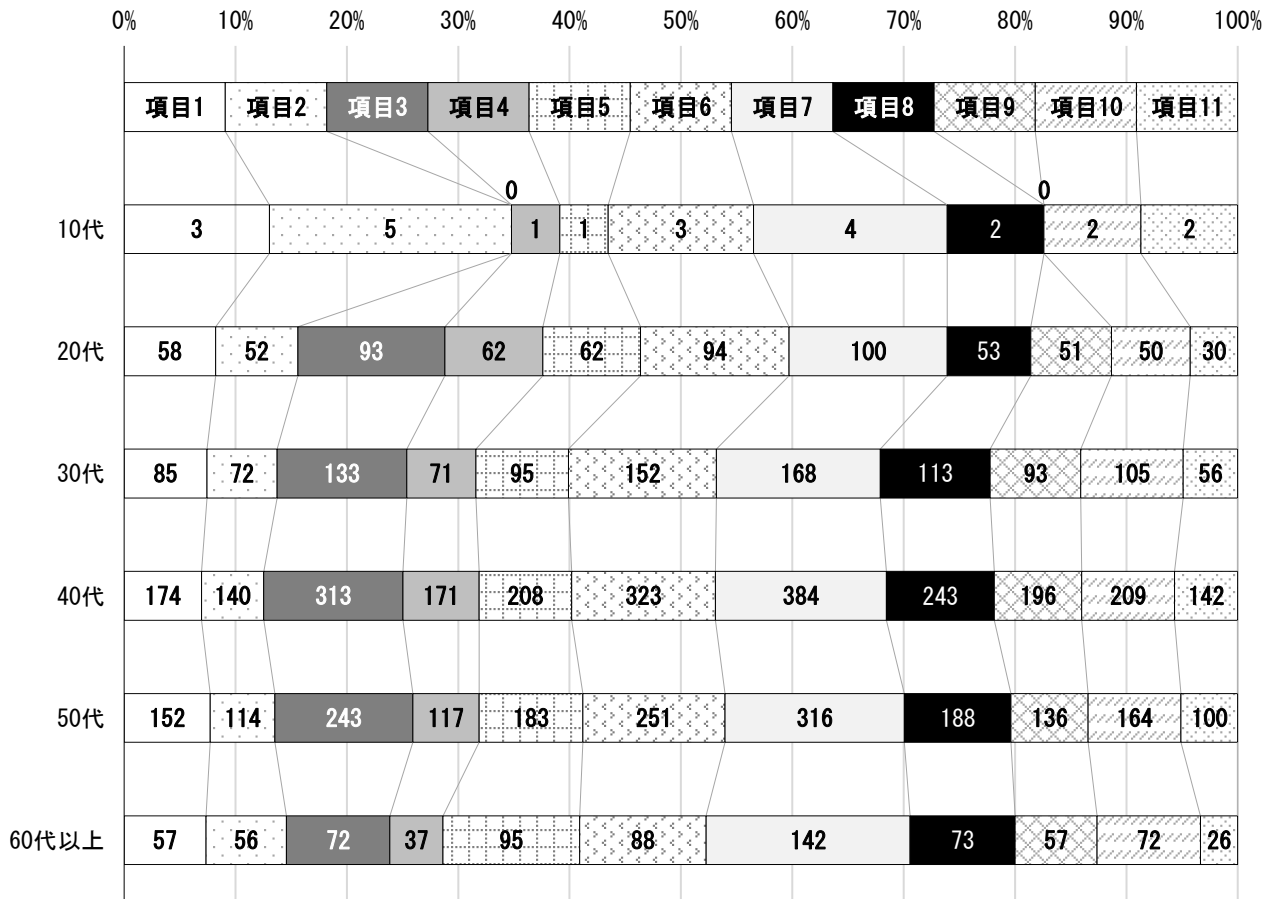
※グラフ中の値は、回収部数の計（1,582）に対する回答割合を示す。（単位%）

・学習が行われる場所・メディアの希望としては、「福祉サービス事業所等」（70.4%）が最も高く、続いて「職場」（57.7%）、「インターネット」（54.0%）となっている。

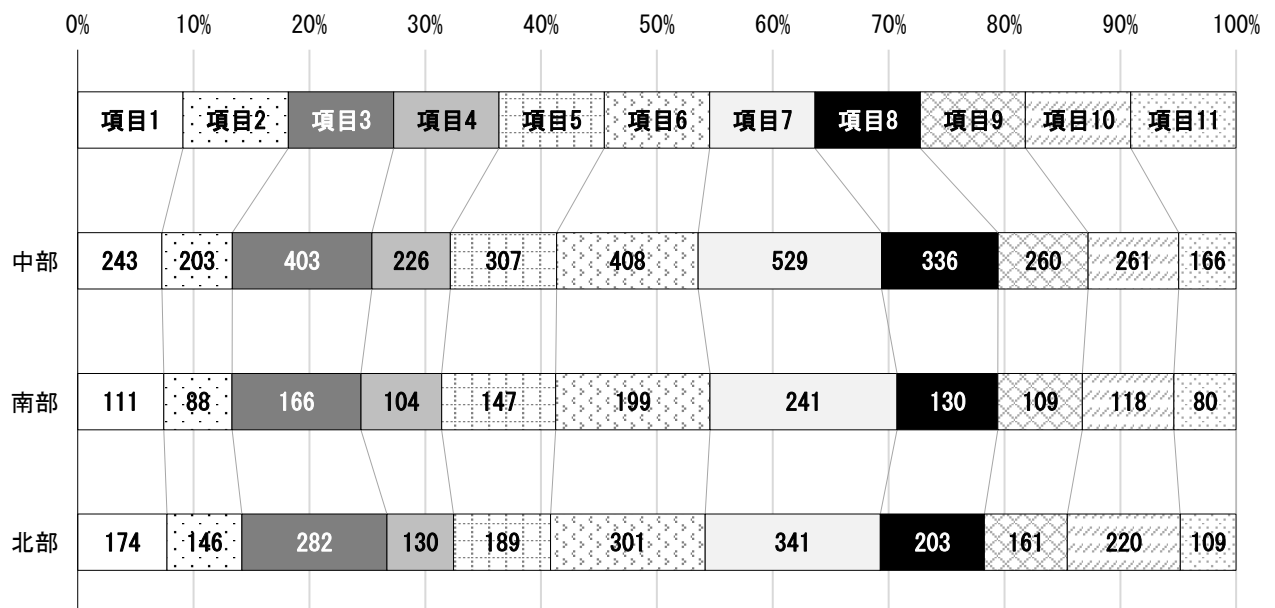
項目1	自宅での学習活動
項目2	テレビやラジオを活用した学習活動
項目3	インターネットを活用した学習活動
項目4	自分が卒業した学校の同窓会組織等が主催する学びの場
項目5	同好者が自主的に行っている集まり、サークル
項目6	職場の教育、研修
項目7	障がい福祉サービス事業所等の講座、余暇活動
項目8	公民館等の公的機関で行われる講座や教室
項目9	図書館、博物館、美術館で行われる講座や教室
項目10	カルチャーセンター等、民間の場で行われる講座や教室
項目11	大学や専修学校等で行われる講座や教室



質問 8 年代別



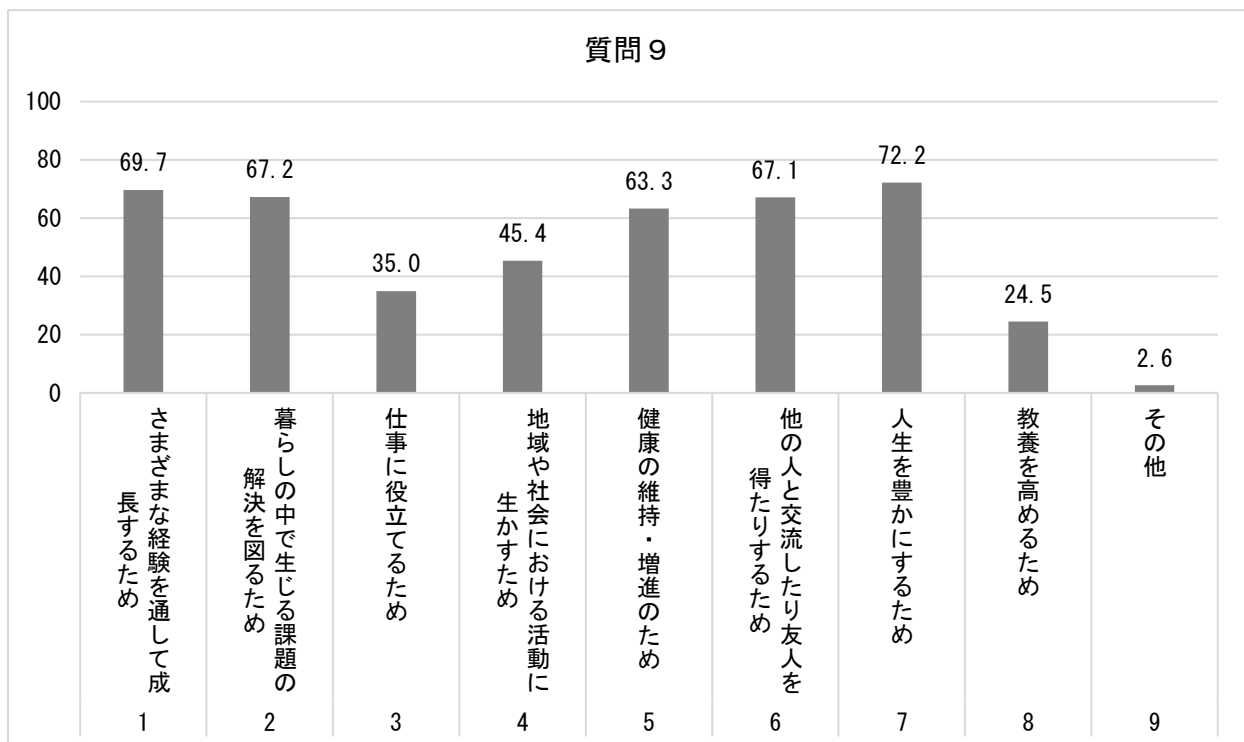
質問 8 居住地別



質問9

障がい者のある人が生涯にわたって学ぶ目的として、重要なことはどのようなことだと思いますか。次の1～9の中からあてはまるものをすべて選び、○をつけてください。 ※複数回答可

項目	回答数
1 さまざまな経験を通して成長するため	1102
2 暮らしの中で生じる課題の解決を図るため	1063
3 仕事に役立てるため	553
4 地域や社会における活動に生かすため	718
5 健康の維持・増進のため	1001
6 他の人と交流したり友人を得たりするため	1062
7 人生を豊かにするため	1142
8 教養を高めるため	388
9 その他	41



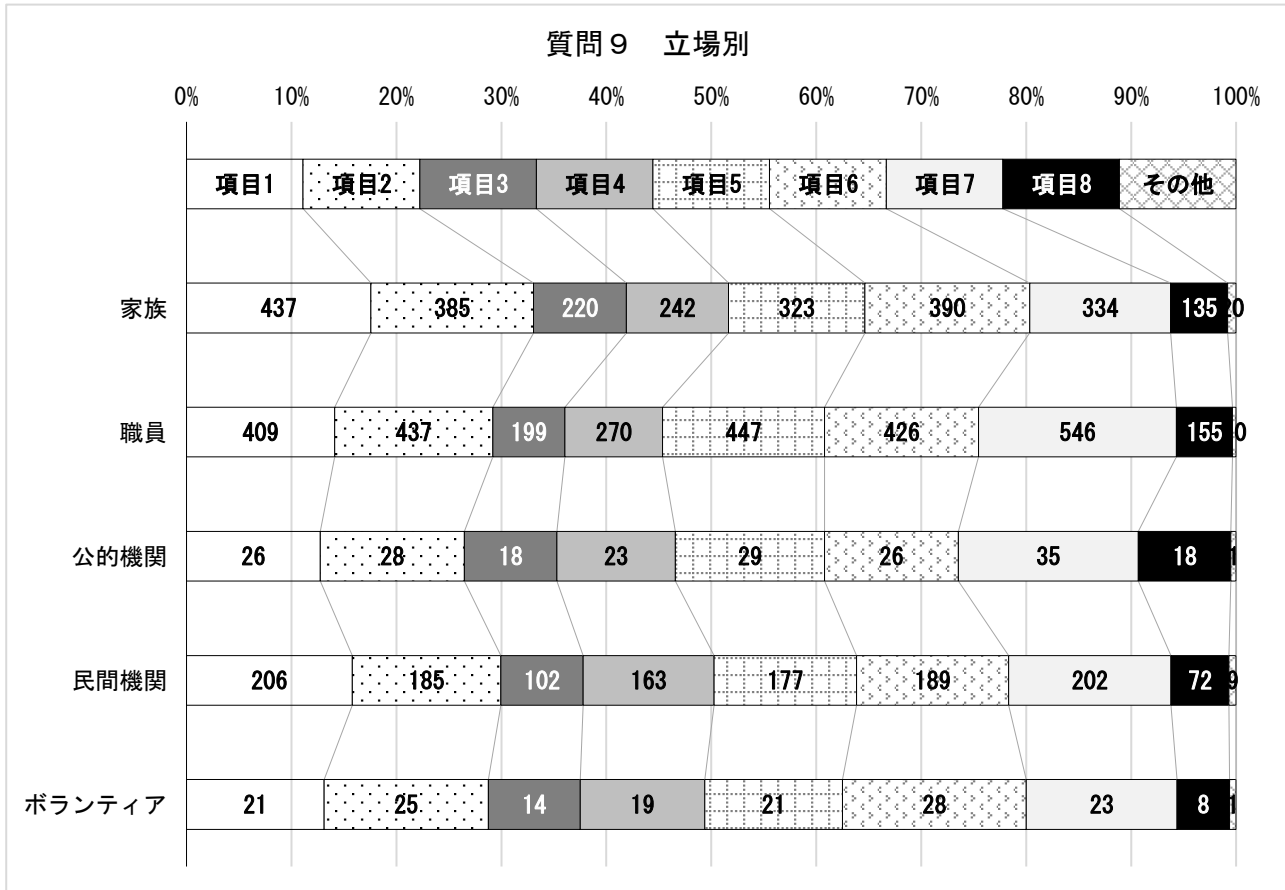
※グラフ中の値は、回収部数の計（1,582）に対する回答割合を示す。（単位％）

【「その他」に記載のあったの主な回答】

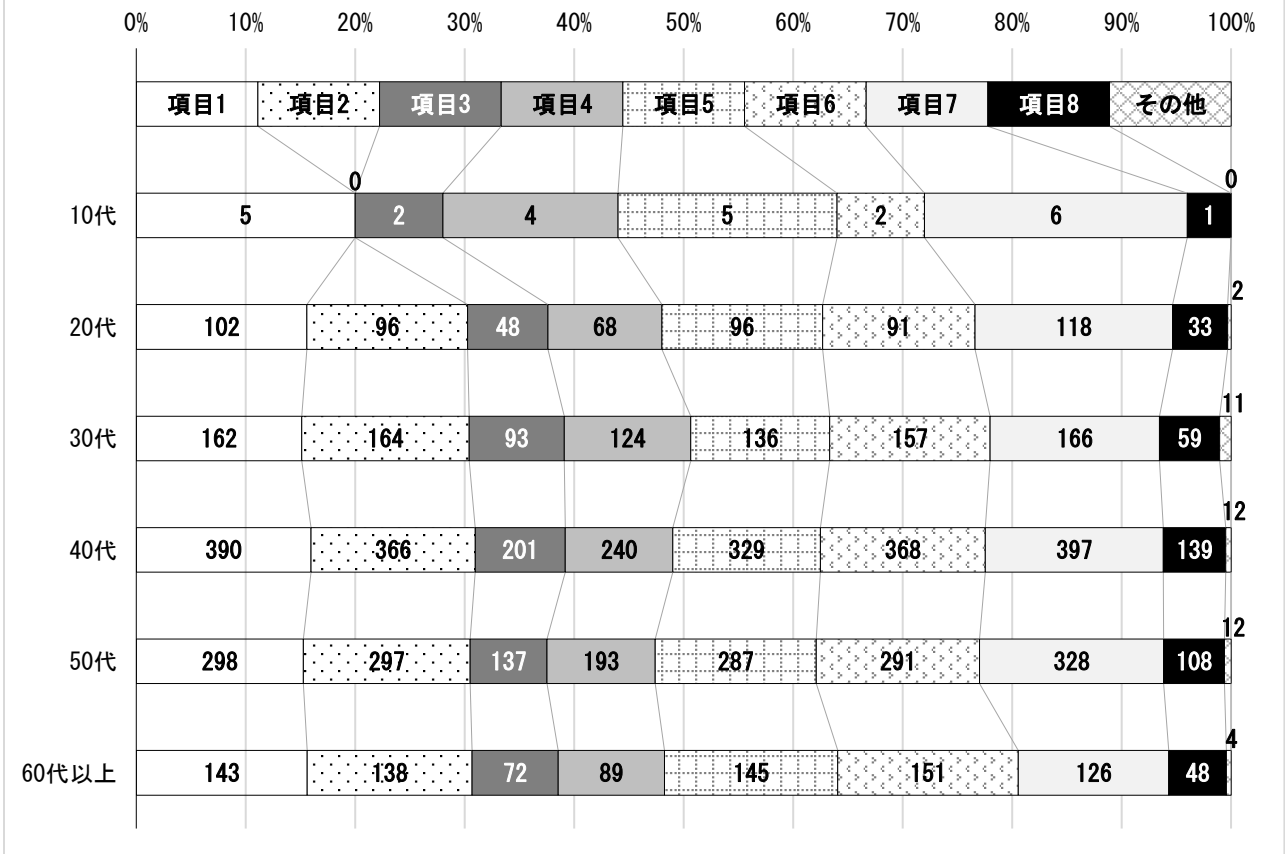
- ・ “生きている” ということを感じるため
- ・ その人らしい生き方をして、幸福になるため
- ・ 自己肯定感を高めるため
- ・ QOLの向上のため
- ・ 学校・教育行政・保護者・福祉行政が課題を出し、学び理解を広め、子ども・若者を就労につなげる
- ・ 地域社会をよりよく変化させるため
- ・ 福祉の中だけではなく、自分のしたいこと、希望することができる環境で生活できるようにするため
- ・ 夢や目標を持つ、またその選択肢を拡げるため

・ 学ぶ目的として、「人生を豊かにする」（72.2%）、「さまざまな経験を通じた成長」（69.7%）、「暮らしの中での課題解決」（67.2%）、「人との交流」（67.1%）、「健康の維持・増進」（63.3%）の回答割合が高い。

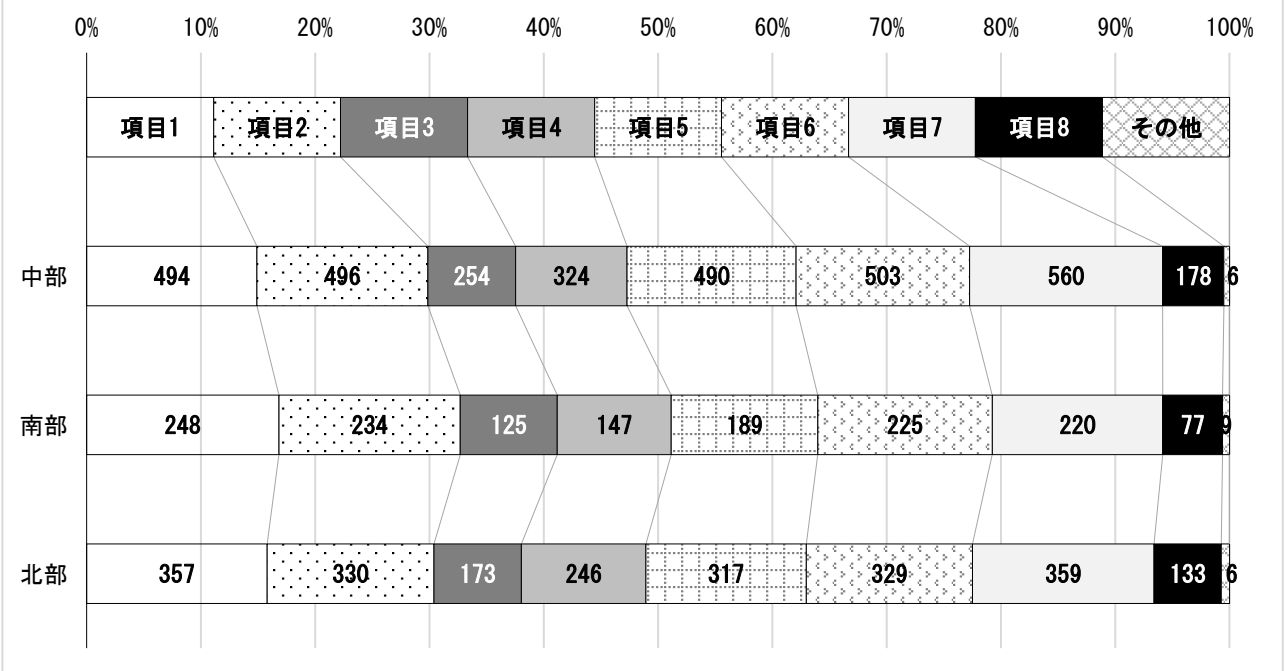
項目1	さまざまな経験を通して成長するため
項目2	暮らしの中で生じる課題の解決を図るため
項目3	仕事に役立てるため
項目4	地域や社会における活動に生かすため
項目5	健康の維持・増進のため
項目6	他の人と交流したり友人を得たりするため
項目7	人生を豊かにするため
項目8	教養を高めるため



質問9 年代別



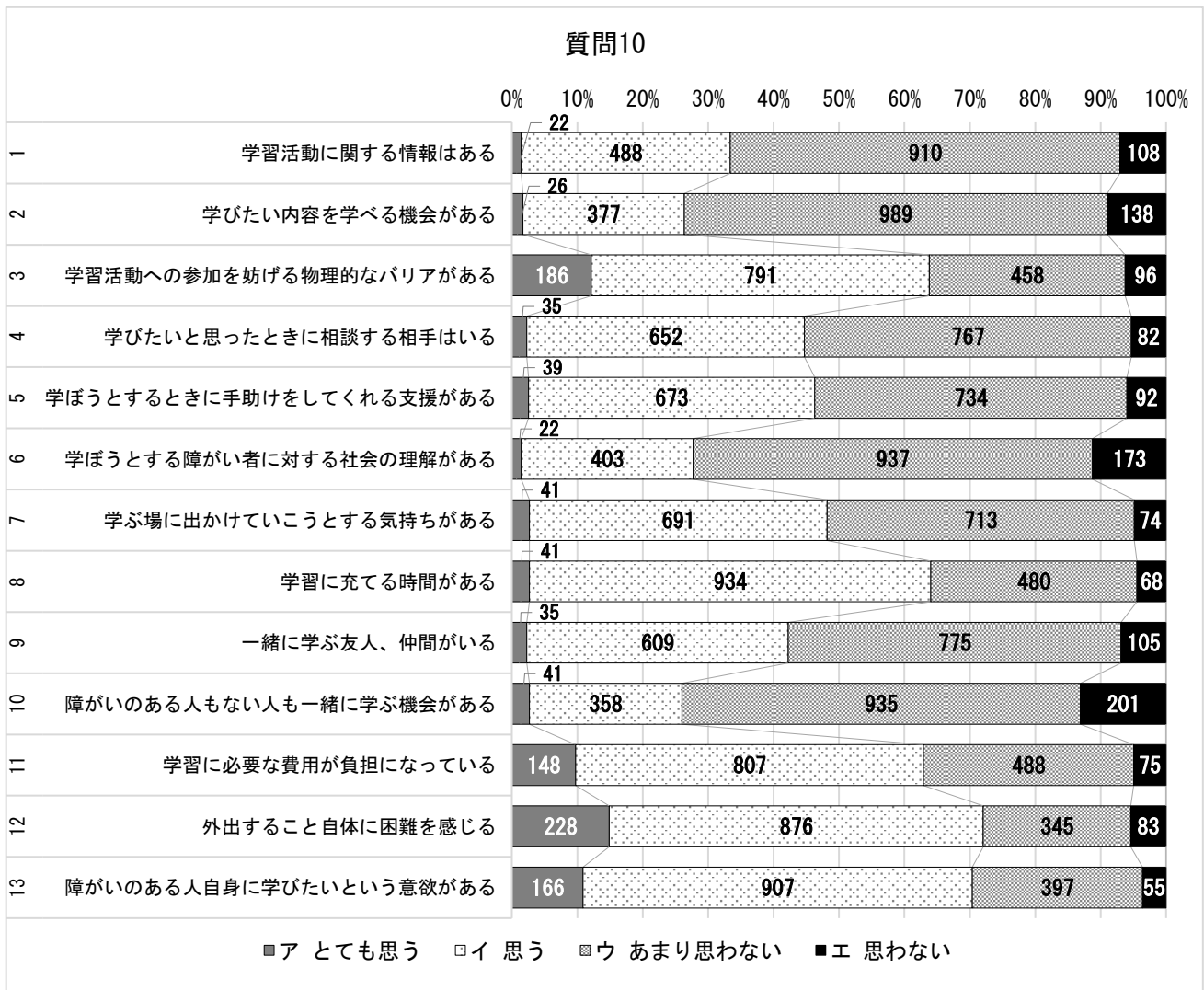
質問9 居住地別



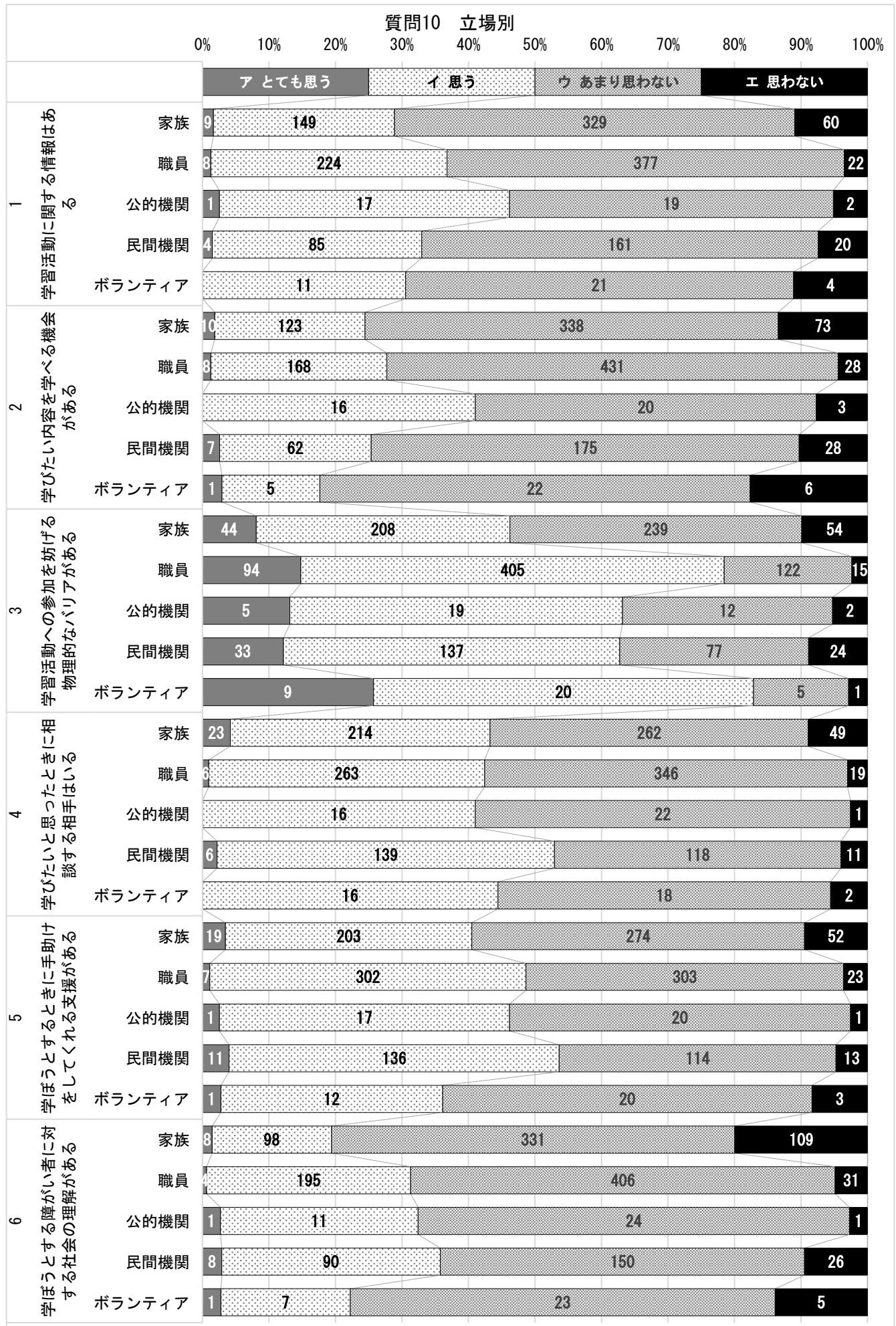
質問10

障がいのある人が生涯学習活動を続けていく上で、次の1～13のそれぞれの項目についてどのように思いますか。ア～エの中から最もよくあてはまるもの1つに○をつけてください。

項目	ア とても思う	イ 思う	ウ あまり思わない	エ 思わない
1 学習活動に関する情報はあ	22	488	910	108
2 学びたい内容を学べる機会がある	26	377	989	138
3 学習活動への参加を妨げる物理的なバリアがある	186	791	458	96
4 学びたいと思ったときに相談する相手はいる	35	652	767	82
5 学ぼうとするときに手助けをしてくれる支援がある	39	673	734	92
6 学ぼうとする障がい者に対する社会の理解がある	22	403	937	173
7 学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある	41	691	713	74
8 学習に充てる時間がある	41	934	480	68
9 一緒に学ぶ友人、仲間がいる	35	609	775	105
10 障がいのある人もない人も一緒に学ぶ機会がある	41	358	935	201
11 学習に必要な費用が負担になっている	148	807	488	75
12 外出すること自体に困難を感じる	228	876	345	83
13 障がいのある人自身に学びたいという意欲がある	166	907	397	55

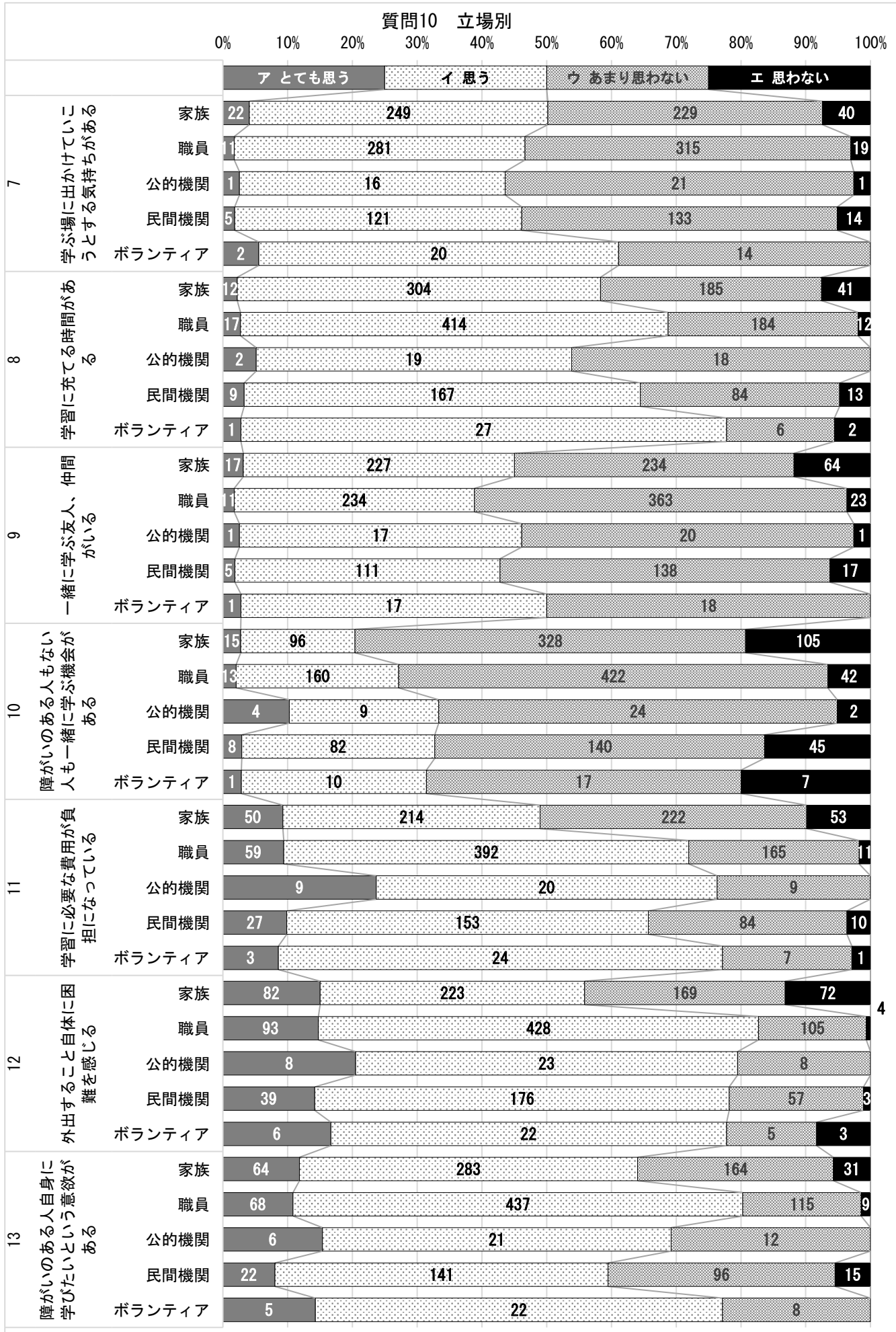


- ・「とても思う」「思う」の回答割合が高い項目
 - 「外出すること自体に困難を感じる」 (72.1%)
 - 「障がいのある人自身に学ぶ意欲がある」 (70.4%)
 - 「学習に充てる時間がある」 (64.0%)
- ・「あまり思わない」「思わない」の回答割合が高い項目
 - 「障がいのある人もない人も一緒に学ぶ機会がある」 (74.0%)
 - 「学びたい内容を学べる機会がある」 (73.7%)



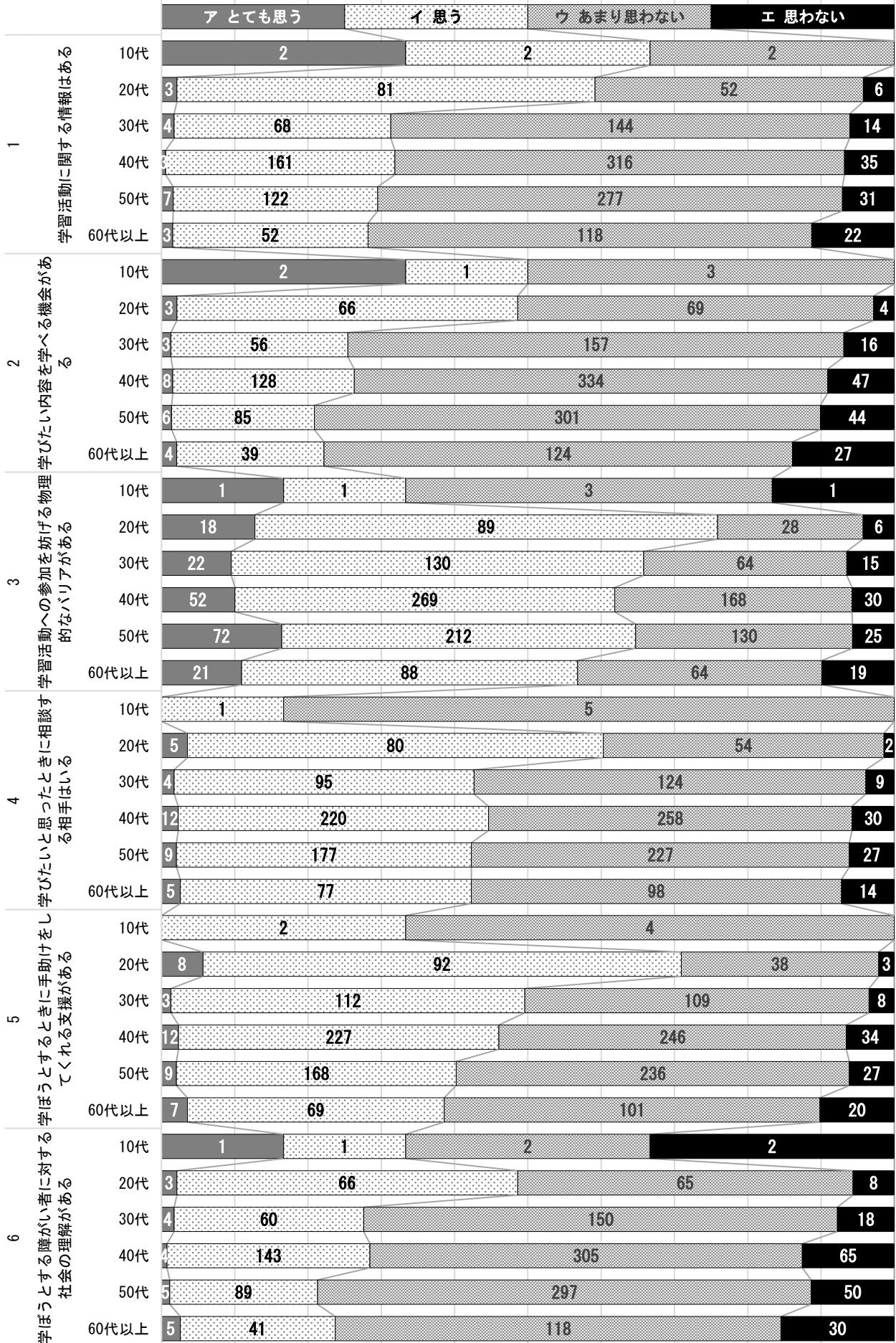
質問10 立場別

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



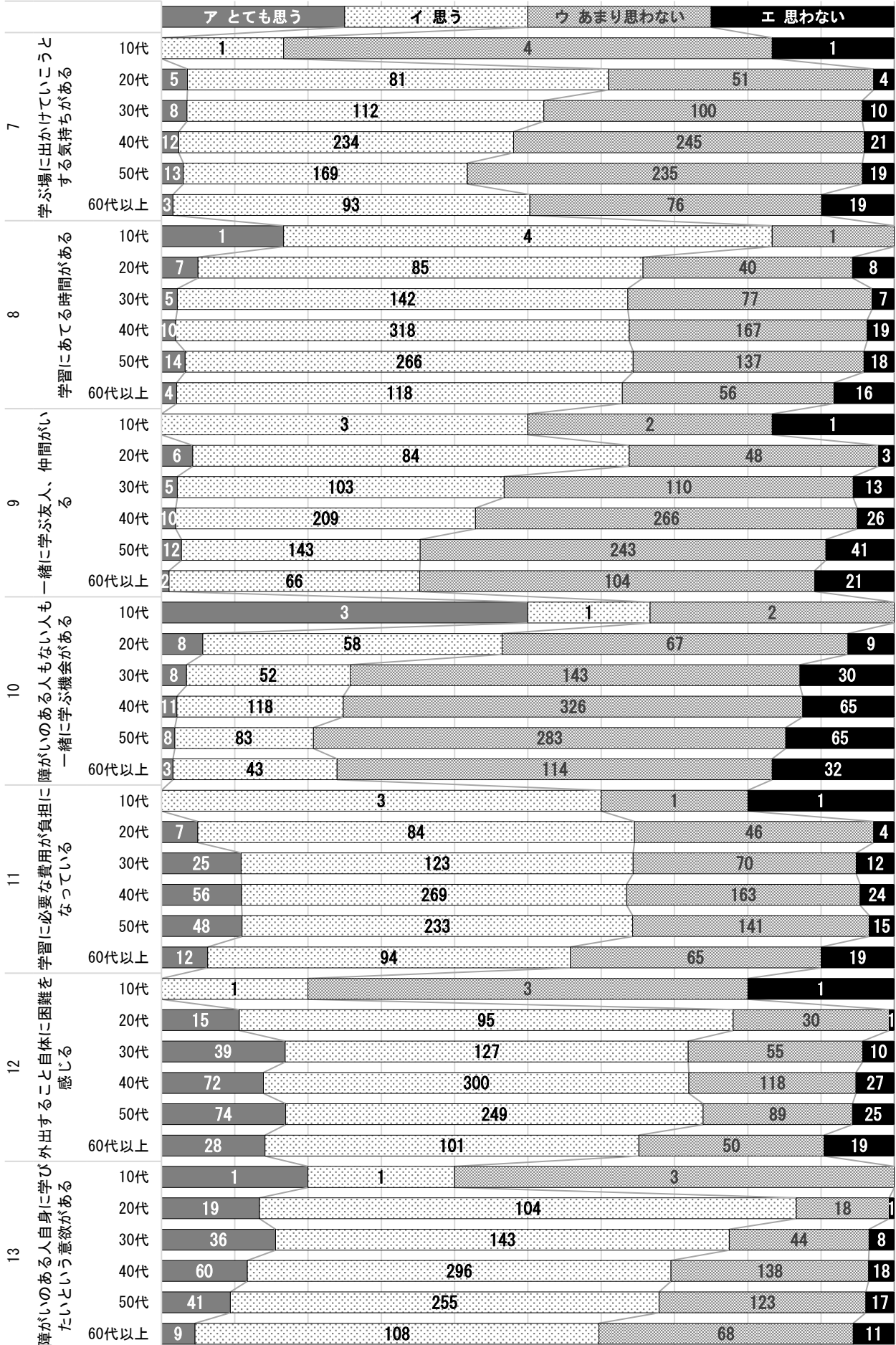
質問10 年代別

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



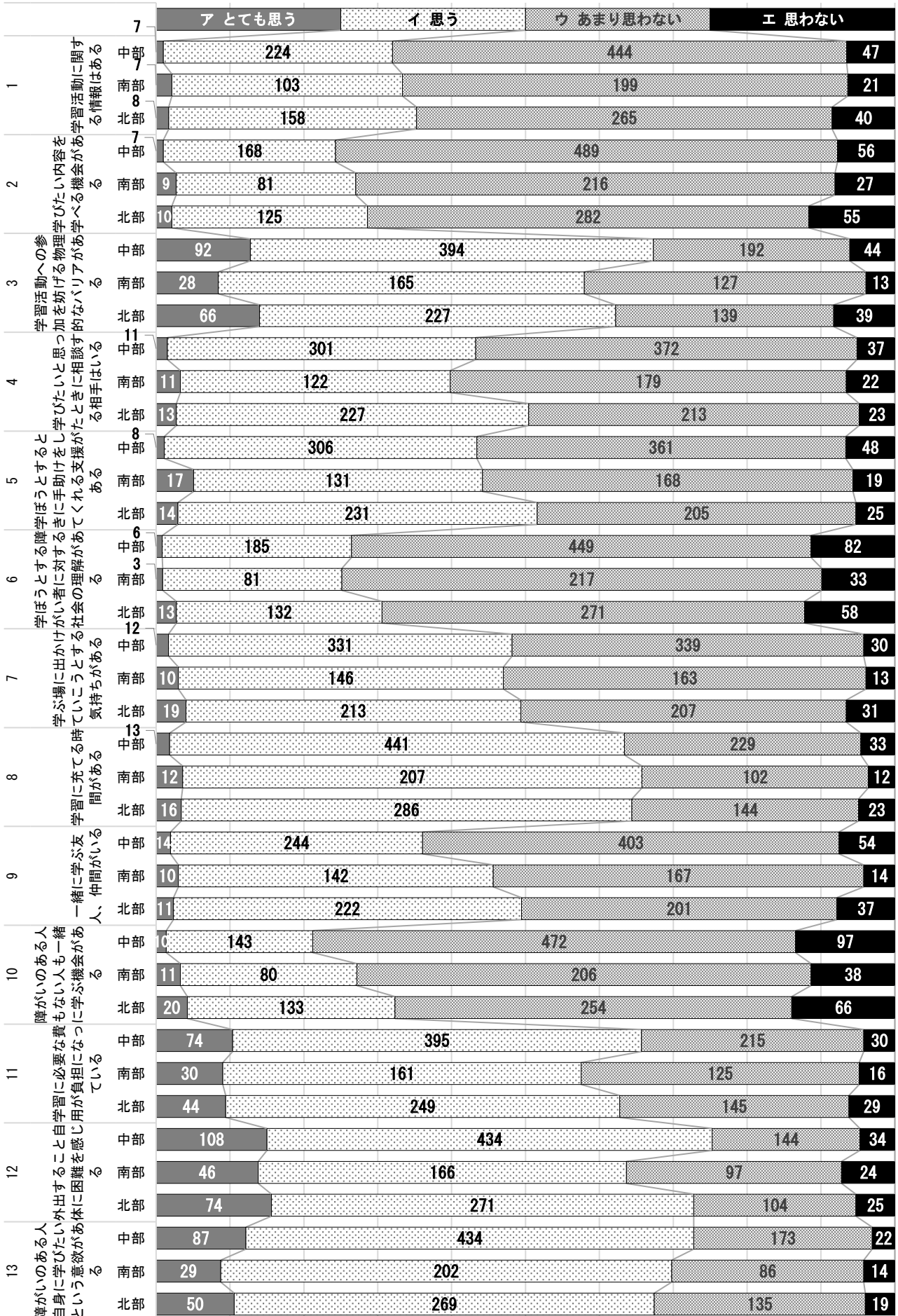
質問10 年代別

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



質問10 居住地別

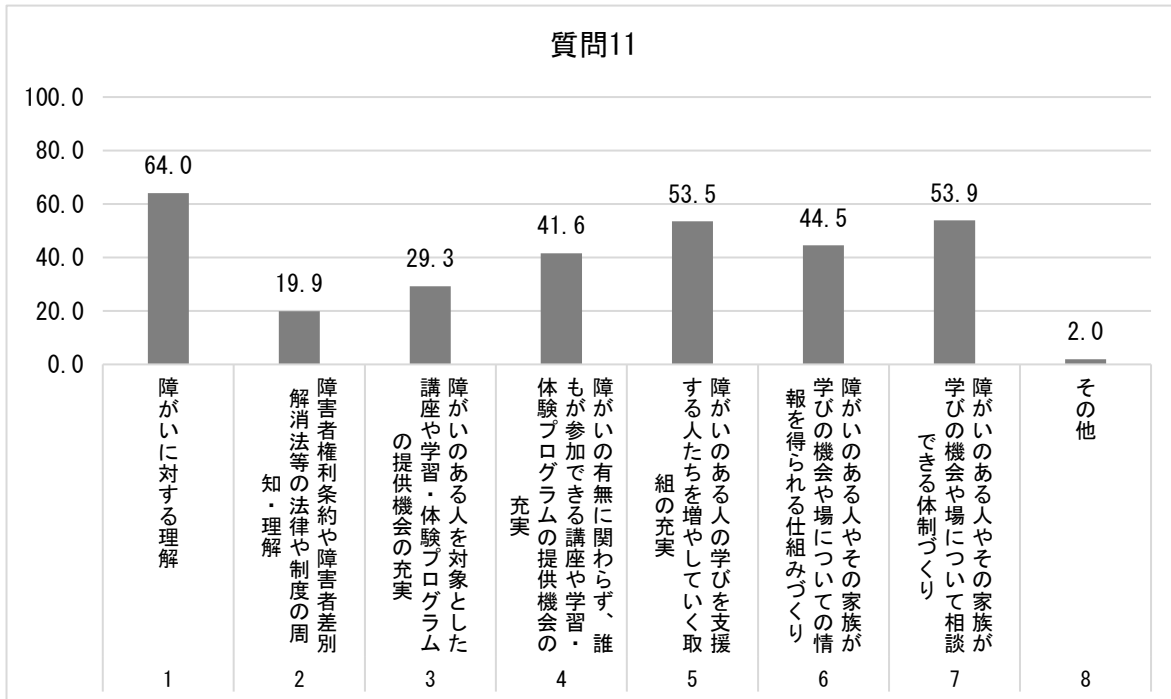
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



質問11

本県において、障がいのある人の生涯学習を充実させていくにあたって、最も優先的に取り組むべきだと思うことは何ですか。次の1～8から3つ以内に○をつけてください。 ※複数回答可

項目	回答数
1 障がいに対する理解	1013
2 障害者権利条約や障害者差別解消法等の法律や制度の周知・理解	315
3 障がいのある人を対象とした講座や学習・体験プログラムの提供機会の充実	463
4 障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供機会の充実	658
5 障がいのある人の学びを支援する人たちを増やしていく取組の充実	847
6 障がいのある人やその家族が学びの機会や場についての情報を得られる仕組みづくり	704
7 障がいのある人やその家族が学びの機会や場について相談できる体制づくり	853
8 その他	31



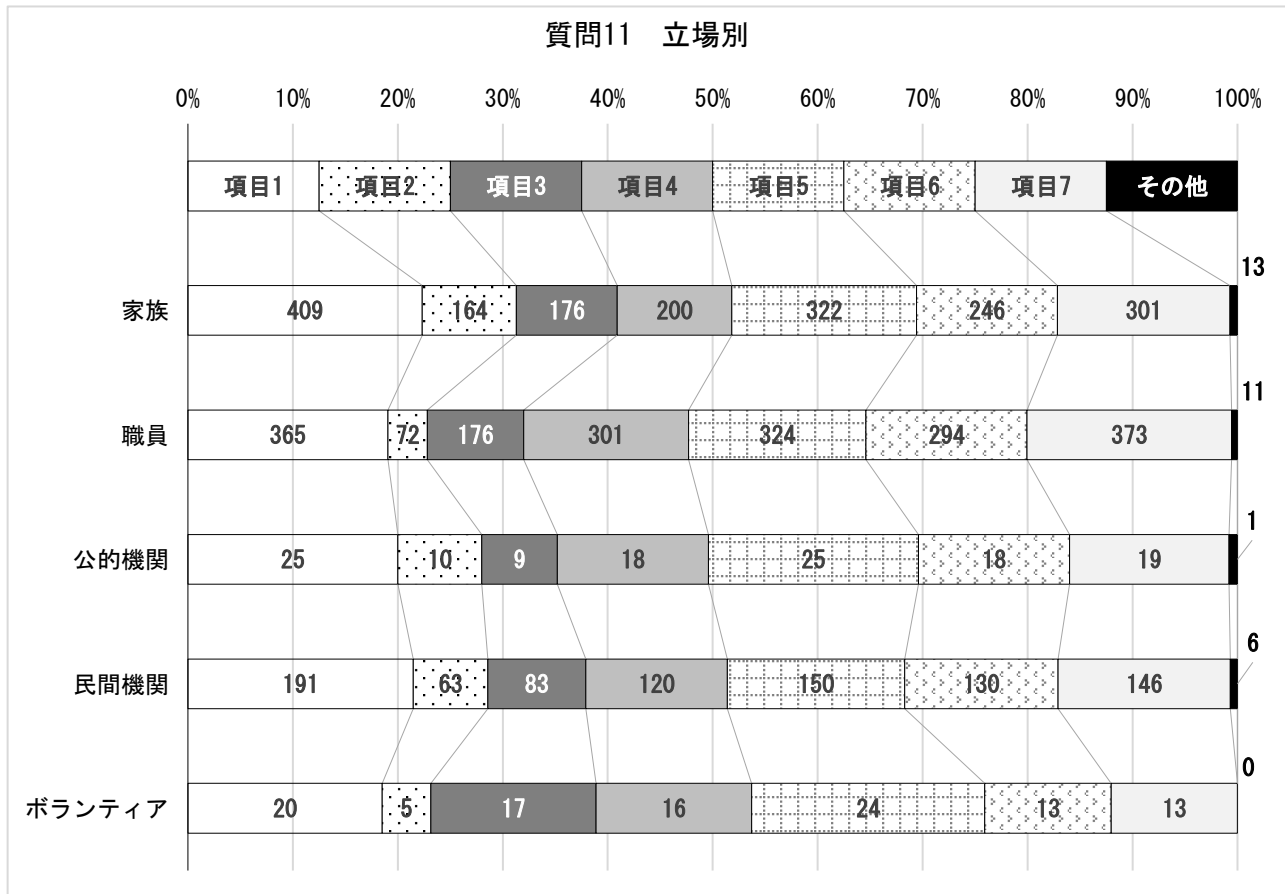
※グラフ中の値は、回収部数の計（1,582）に対する回答割合を示す。（単位%）

【「その他」に記載のあったのおもな回答】

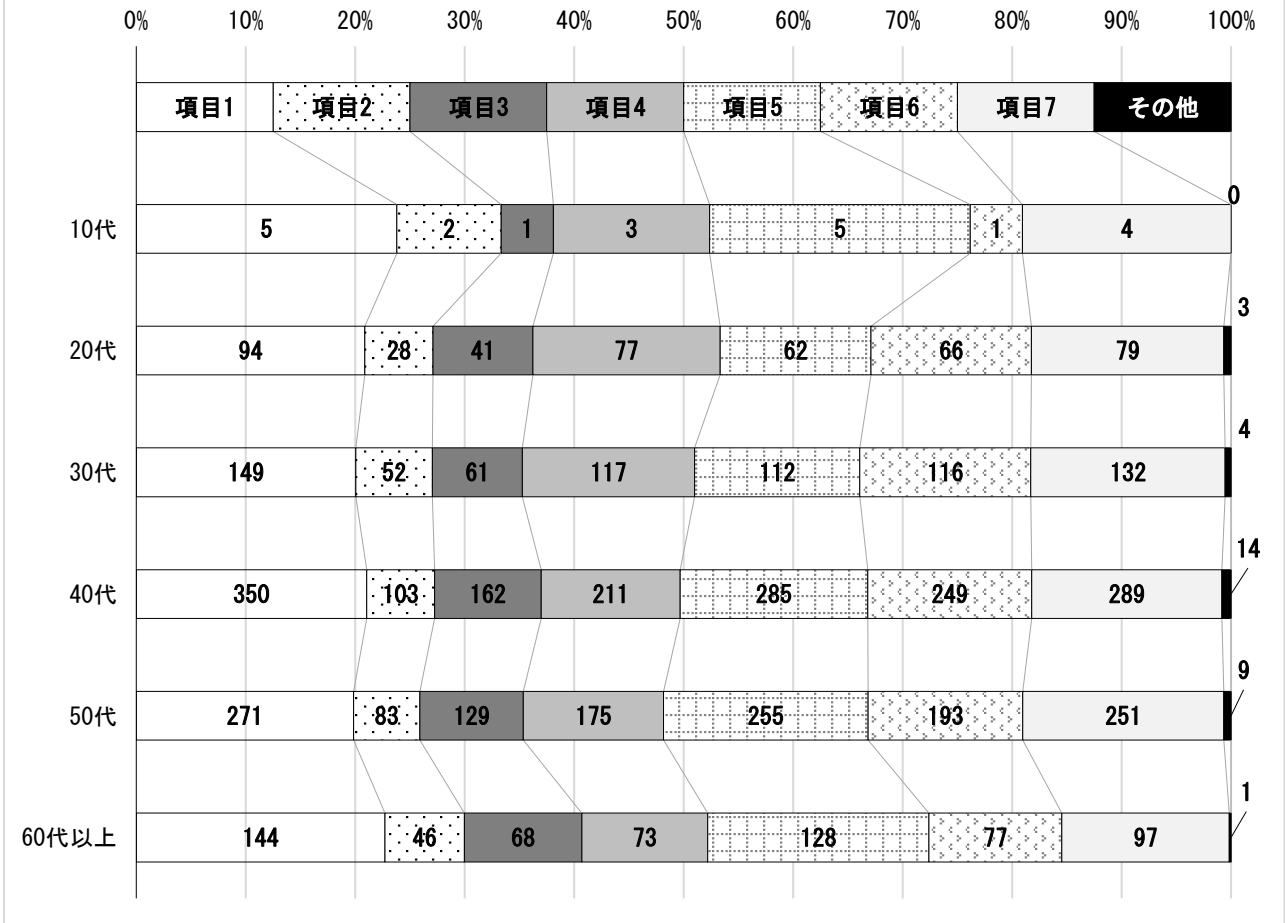
- ・ 障がいのある人たちの声を社会的に発信する仕組み
- ・ 障害のある人も就労したり、結婚したり、他の人と同じように生きられる社会づくり
- ・ 柔軟な対応。コンプライアンスやルールを見直し、できることを増やす
- ・ 障がいの有無に関わらず、人はみな一人一人が大切な存在であるという考え方を身につける
- ・ 聴覚障がいのある人にとっては、何よりも情報が保障される環境があること
- ・ 障がいがあっても取り組める文化・芸術・スポーツ等の場、余暇活動の充実
- ・ 障がいのある人が、「地域住民」として、フラットに関われる環境づくり
- ・ 金銭的支援

- ・ 本県において優先的に取り組むべきこととして、回答割合が高い項目は、以下のとおり。
 「障がいに対する理解」（64.0%）
 「学びの機会や場について相談できる体制づくり」（53.9%）
 「学びを支援する人たちを増やしていく取組の充実」（53.5%）

項目1	障がいに対する理解
項目2	法律や制度の周知・理解
項目3	障がいのある人を対象とした講座や学習・体験プログラムの充実
項目4	障がいの有無に関わらず誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの充実
項目5	学びを支援する人たちを増やしていく取組の充実
項目6	障がいのある人や家族が学びの場や機会についての情報を得られる仕組みづくり
項目7	障がいのある人や家族が学びの場や機会について相談できる体制づくり



質問11 年代別



質問11 居住地別

